

龍谷大学 履修要項  
2025年度 政策学部

最終更新日：2026年3月19日

2025年度入学生

政策学部

## 2025年度入学生 政策学部 メニュー

### 「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

>

- 政策学部の教育理念・目的 >
- 政策学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (政策学)] >
- 政策学部の教育課程編成・実施の方針 >

### 政策学部における学修

>

- 【1】政策学部の教育システム >
- 【2】政策学部の特徴ある科目 >
  - (1) 「学ぶ」シリーズ >
  - (2) 「グローバル・シチズンシップ・エデュケーション」科目 >
  - (3) 政策ナビ >
- 【3】4年間の学修プログラム >
- 【4】卒業の要件および学士号 >
  - 卒業の要件 >
  - フリーゾーンについて >
  - 卒業要件表 >
  - 卒業要件単位数と内訳 >
- 【5】先修制 >
- 【6】グレードナンバー制 >
- 【7】科目ナンバリング >
- 【8】コース制 >

### 政策学部専攻科目の教育目的および履修方法

>

#### 学修課程上の区分 >

- 【1】必修科目 >
- 【2】履修指導科目 >
- 【3】学部内コース選択後の科目 >
  - (1) コース必修科目 >
  - (2) コースコア科目 >
- 【4】コース制 >
  - (1) コースへの所属時期 >
  - (2) コースの変更 >
- 【5】政策学部内コース >
  - (1) 政策構想コース >
  - (2) 環境創造コース >
  - (3) 地域公共人材コース >
  - (4) 学部共通コース >
- 【6】演習科目 >

- (1) 基礎演習Ⅰ<第1 Semester>> (2) 基礎演習Ⅱ<第2 Semester>>
- (3) コミュニケーション・ワークショップ演習<第3 Semester>> (4) 演習Ⅰ<第4・第5・第6 Semester>>
- (5) 演習Ⅱ(卒業研究を含む)<第7・第8 Semester>> (6) 地域課題発見演習<第1 Semester>>
- (7) キャリア・コミュニケーション演習<第4 Semester>> (8) 企業のCSR実践演習<第5 Semester>>
- (9) グローカル戦略実践演習<第6 Semester>> (10) 政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ<第4・第5・第6・第7・第8 Semester>>
- (11) 政策実践・探究演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB<第3・第4・第5・第6 Semester>> (12) 学部共通コース演習>

- 【7】卒業研究について>

- 卒業研究の種類について>
  - 卒業研究提出の流れについて>
  - 卒業研究の内容について>

- 【8】教職課程教科に関する科目>

- 【9】政策学部開設科目一覧>

- 【10】科目ナンバリング>

- 【11】政策力ナビ>

- 真実を探究する基礎能力「他者とともに社会を変える能力」>
  - 政策構想コース地域・都市政策プログラム「地域・都市を元気にする人になる」>
  - 政策構想コース国際・比較政策プログラム「世界の知恵や経験を活かせる人になる」>
  - 地域公共人材コース「地域の未来をひらくひとになる」> ■環境創造コース「自然と共生する社会をつくる人になる」>

- 【12】「地域公共政策士」>

- 「地域公共政策士」とは> 政策学部「初級地域公共政策士」資格教育プログラム> 環境政策基礎能力プログラム>
  - 都市政策基礎能力プログラム> グローカル人材プログラム>

- 【13】「グローバルプロジェクトマネジャー」>

- 「グローバルプロジェクトマネジャー」とは>

## 研究科について

>

- 政策学研究科について>
- 龍谷大学大学院修士課程学内推薦入学試験について>
- 政策学部生の政策学研究科科目早期履修制度について>

- 1.申込資格について>
  - 2.申込書類および申込締め切りについて>
  - 3.履修許可について>
  - 4.費用について>
  - 5.成績評価の基準・単位認定について>
  - 6.受講対象科目について>

# 「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

## 政策学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、公共性を深く理解し、高い市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。

## 政策学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (政策学)]

政策学部の「教育理念・目的」に基づき、教養科目及び専攻科目の履修を通じて、以下の基本的資質・能力を備えるに至った学生に学士 (政策学) の学位を授与する。

### <政策学部の学生に保証する基本的な資質・能力>

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解している。 ●人類的及び地域的課題を政策学の知識を用いて分析し、課題の本質を適切に把握することができる。 ●政策的課題を他者と協力して達成するためのコミュニケーション能力を身につけている。 ●政策学に関する知的情報の受信、選択、分析、発信を行うための、言語や情報処理を含めた基本的なリテラシーを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●持続可能な発展の観点から、人類的及び地域的課題について、論理的かつ多角的に思考・判断することができる。 ●政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけている。 ●政策的課題に関する調査の報告や情報を活用することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●人類的及び地域的課題に対して、自己に関連づけながら、主体的かつ具体的な課題を設定することができる。 ●人類的及び地域的課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決することができる。 ●政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけている。

●政策学の学びや他者との協働を通じて、社会の要請に応える就業力を身につけている。

また、学部共通コースの学生に保証する基本的な資質・能力は以下のとおりである。

### <国際関係コースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。

### <英語コミュニケーションコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。 ●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。

### <スポーツサイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。 ●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力	●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。 ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。

等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。

### <環境サイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●環境問題発生メカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。

### <学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。</li> <li>2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。</li> <li>3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。</li> </ol>
--

### <国際関係コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、国際関係コース運営委員会が修了を認定する。</li> <li>2. 修了認定を受けるためには、所定の44単位以上の単位数を必要とする。</li> </ol>
---

### <英語コミュニケーションコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、英語コミュニケーションコース運営委員会が修了を認定する。</li> <li>2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。</li> </ol>
--

### <スポーツサイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、スポーツサイエンスコース運営委員会が修了を認定する。</li> <li>2. 修了認定を受けるためには、所定の40単位以上の単位数を必要とする。</li> </ol>
--

### <環境サイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、環境サイエンスコース運営委員会が修了を認定する。</li> <li>2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。</li> </ol>
--

## 政策学部の教育課程編成・実施の方針

政策学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応が可能となるよう学習環境・支援体制を整備する。

### <政策学部の教育内容>

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p>
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p> <p>●政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解するための基礎科目を、必修科目・履修指導科目・コース必修科目として3セメスターまでに配置する。</p> <p>●人類的及び地域的課題を適切に分析し本質を把握する力を養うために、グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA～Dなど、グローバルな視点を重視した専攻基本科目を配置する。</p> <p>●基礎演習Ⅰ・Ⅱやコミュニケーション・ワークショップ演習など、他者と協働するためのコミュニケーション能力の向上を重視した専攻導入科目を配置する。</p> <p>●政策学に必要な研究技法，言語，情報処理などの基本的なリテラシーを身につけるための科目を設置する。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して，自ら課題を発見し，その解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p> <p>●持続可能な発展の観点から，人類的及び地域的課題について，論理的かつ多角的に思考・判断することができる力を養う専攻コース科目を配置する。</p> <p>●政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけるための専攻コース科目を配置する。</p> <p>●政策的課題に関する調査の報告や情報を活用するための専攻コース科目を配置する。</p>
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<p>●人類的及び地域的課題に対して，自己に関連づけながら，主体的かつ具体的な課題を設定する力を養うために，演習Ⅰ・Ⅱなどの少人数型専門演習科目を配置する。</p>

- 人類的及び地域の課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決する力を養うために、政策実践・探究演習ⅠA・ⅡA（国内・海外）などのPBL型専門演習科目を配置する。
- 政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけるために、政策学研究発展演習Ⅰ・Ⅱなど、大学院への接続も視野に入れた専門演習科目を配置する。
- 社会が要請する就業力を身につけるために、企業のCSR実践演習などのキャリア系専門演習科目を配置する。

また、専攻科目として、学部共通コース科目を置き、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開する。

### <国際関係コースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第4セメスターに必修科目（国際関係論Ⅰ、地域研究入門）と選択必修科目（コース指定外国語）を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、選択科目B群（経済・経営・法・政策学部からの提供科目）を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目（主として選択科目A群）を開講する。

### <英語コミュニケーションコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral CommunicationⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「WritingⅠ・Ⅱ」を必修科目として、また、「Communicative GrammarⅠ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。 ●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「SeminarⅠ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in

English」「海外研修」「Seminar I・II」「卒業研究」を配置する。

### <スポーツサイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。 ●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。 ●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。 ●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●主体性と協働性を身につけるために、演習とキャリア入門(スポーツサイエンスコース)、スポーツキャリア実習(キャリア形成科目)を開講する。

### <環境サイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第4セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論I・II」などの科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

### <教育方法>

- 全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。
- 学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるような科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開講する。

### <学修成果の評価>

- 学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を含めて評価を行う。
  - ① 筆答試験による評価
  - ② レポート試験による評価
  - ③ 実技試験による評価



## 政策学部における学修

政策学部では、さまざまな科目が一定のカリキュラム（教育課程）に沿って展開されていますが、これらの科目は大きく「教養教育科目」と「専攻科目」の二つに分けることができます。

「教養教育科目」は、「仏教の思想」科目、「言語科目」、「教養科目」で構成されています（詳細は「教養教育科目の教育目的及び履修方法」を参照）。

一方、「専攻科目」とは、政策学を専門的に学修するための科目です。「専攻科目」については、学修課程上の区分また、必修科目等の履修上の区分でそれぞれ分かれています（詳細は「政策学部専攻科目の教育目的および履修方法」を参照）。

政策学部では、みなさんが政策学の基礎から段階を追って学修できるようなカリキュラムを採用しています。4年間の教育システムは以下のとおりです。

### 【1】政策学部の教育システム

1年次	第1 Semester (1年次前期)	仏教の思想、外国語をはじめとする教養教育科目および専攻科目のうち専攻導入科目及び専攻基本科目を中心に学修を進めます。「基礎演習Ⅰ」では、レジュメの作り方や資料の探し方、討論・発表の方法など、大学での学修に必要な不可欠なノウハウを身につけます。 なお、教養教育科目は、1・2年次を中心に計画的に履修してください。
	第2 Semester (1年次後期)	仏教の思想、外国語、教養科目および専攻導入科目及び専攻基本科目を中心に学修を進めます。必修科目「政策学を学ぶ」では、具体的事例を通して、政策学の学びの基礎を身につけ政策学への関心を高めてもらいます。また、「基礎演習Ⅱ」では、学期末にクラス対抗の合同討論会を開催。クラスサポーターからのアドバイスを受けながら、政策学部での1年間の学修の成果を存分に発揮してください。
2年次	第3 Semester (2年次前期)	外国語、教養科目および専攻科目のコース総論科目及び専攻基本科目を中心に学修を進めます。「コミュニケーション・ワークショップ演習」では、学修の基礎になる対話・議論の能力を身につけます。第4 Semesterから始まる「演習」および「コース」の選択を行うのもこの時期となります。
	第4 Semester (2年次後期)	外国語、教養科目および専攻科目の「演習Ⅰ」、各コースコア科目を中心に学修を進めます。各自の所属するコースや演習のテーマに沿った、系統的な履修を心がけてください。
3年次	第5 Semester (3年次前期)	専攻科目の「演習Ⅰ」、各コースコア科目を中心に学修を進めます。3年次生はもっとも学力が伸びる時期です。政策学のより専門的な科目の履修が始まり、戸惑うこともあるでしょうが、オフィス・アワーなどの教育支援制度を利用しながら、積極的に学修に励んでください。
	第6 Semester (3年次後期)	専攻科目の「演習Ⅰ」のまとめとなる重要な時期であり、各コースコア科目を中心に自らの専門性を伸ばす学修を進めます。卒業研究も意識して、テーマ設定や調査などを進め始めるだけでなく、討論会や政策コンテストへの参加など、「演習Ⅰ」のまとめとして幅広い学修の成果を発揮する機会が用意されています。
4年次	第7 Semester (4年次前期)	専攻科目の「演習Ⅱ」、各コース科目をはじめ、大学院と合同で開講される発展的な科目など、より専門的な学修を進めながら、4年間の集大成として卒業研究を作成します。また、就職活動など、皆さんのさまざまな可能性を具現化していく時期でもありますから、有意義な1年となるよう前向きに取り組んでください。
	第8 Semester (4年次後期)	

### 【2】政策学部の特徴ある科目

## (1) 「学ぶ」シリーズ

政策学部では、「～を学ぶ」という共通の名称を持つ科目を開設します。これらの科目は、政策学部の幅広い学問領域を概観しつつ、今後、自らが学びたい分野を選択する手がかりとなるよう概論や基礎を学ぶ科目です。積極的に履修してください。

担当セメスター	「学ぶ」シリーズ 開設科目
第1セメスター	現代社会の市民性を学ぶ、情報処理を学ぶ
第2セメスター	政策学を学ぶ、持続可能性と共生を学ぶ

## (2) 「グローバル・シチズンシップ・エデュケーション」科目

この科目群は、政策学部における教養教育と専門教育をつなぎ、公共性を深く理解し、高い市民性を身につけた自主的な個人を育てる市民性教育の科目です。地球規模の広い視野から社会の一員としてどのように公共に寄与していくのかを考えるための知識・視点を段階的に学びます。

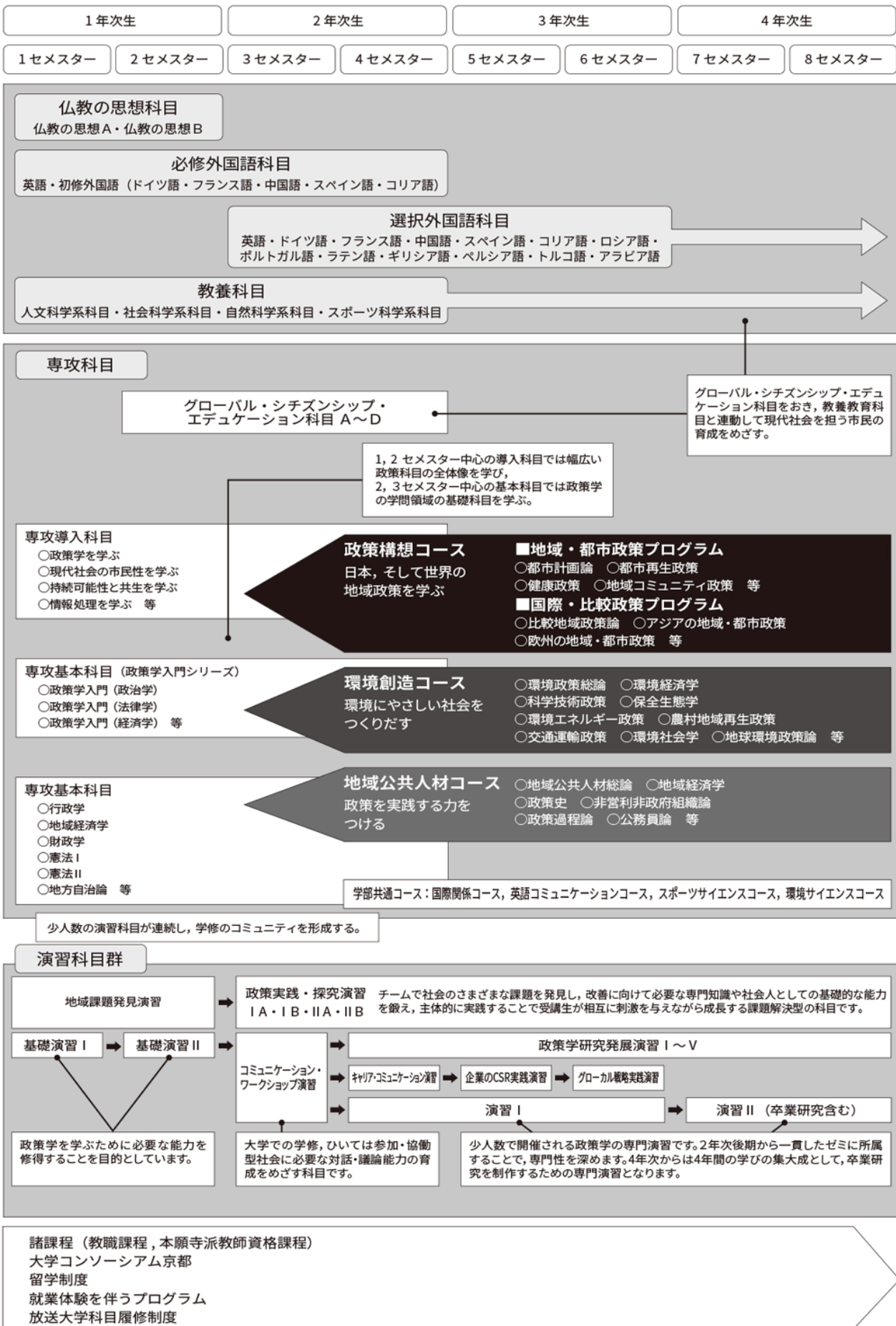
担当セメスター	グローバル・シチズンシップ・エデュケーション科目
第2セメスター	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA（公共性・コミュニティ）
第3セメスター	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB（民主主義）
第4セメスター	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションC（平和構築） グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD（人間の安全保障）

## (3) 政策力ナビ

政策学部では、履修の手引きとして「政策力ナビ」を設定しています。政策力ナビとは、政策学部で身につけてもらいたい基本的資質について説明するとともに、その資質を身につけるための科目を一覧にまとめたものです。

詳細は「政策力ナビ」に掲載しておりますので、この「政策力ナビ」を具体的な履修の手懸かりとして、適切な履修による学修を進めてください。

## 【3】 4年間の学修プログラム



## 【4】卒業の要件および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を履修しなければなりません。

## 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の3つの要件を満たさなければなりません。

### (1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

### (2) 所定単位の修得

卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部ごとに定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を履修しなければなりません。（下記の「卒業要件表」を参照してください。）

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています。（詳細は「教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

### (3) 各コース卒業要件の充足

本学政策学部の教育課程（カリキュラム）は、各コースによって卒業要件が決められています。この要件と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

## フリーゾーンについて

各コースの卒業要件には、「フリーゾーン」という履修要件が定められています。この「フリーゾーン」は、各コースによって認定単位数や対象となる科目区分の取り扱いが異なりますので、注意してください。

## 卒業要件表

各コースの卒業要件は下表のとおりです。

政策学部 政策学科（124単位以上）						
政策学部内コース			学部共通コース			
政策構想コース	環境創造コース	地域公共人材コース	国際関係コース	英語コミュニケーションコース	スポーツサイエンスコース	環境サイエンスコース
仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)	仏教の思想A・B 4単位 (必修4)
必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)	必修外国語 12単位 (必修12)
教養科目 18単位 (選択必修6) (選択⑩) ※注	教養科目 18単位 (選択必修6) (選択⑩) ※注	教養科目 18単位 (選択必修6) (選択⑩) ※注	教養科目 16単位 (選択必修6) (選択10) ※注	教養科目 16単位 (選択必修6) (選択10) ※注	教養科目 24単位 (選択必修6) (選択⑩) ※注	教養科目 16単位 (選択必修6) (選択10) ※注
政策学部専攻科目 82単位 (学部必修2) (コースコア科目42 <コース必修2含む>) (専攻科目38)	政策学部専攻科目 82単位 (学部必修2) (コースコア科目38 <コース必修2含む>) (専攻科目42)	政策学部専攻科目 82単位 (学部必修2) (コースコア科目38 <コース必修2含む>) (専攻科目42)	政策学部専攻科目 36単位 (学部必修2) (専攻科目34)	政策学部専攻科目 36単位 (学部必修2) (専攻科目34)	政策学部専攻科目 36単位 (学部必修2) (専攻科目34)	政策学部専攻科目 36単位 (学部必修2) (専攻科目34)
			国際関係コース 科目44単位 (必修4) (選択必修4) (選択24) (学部提供12)	英語コミュニケーションコース 科目48単位 (必修20) (選択28)	スポーツサイエンスコース科目 40単位 (選択必修10) (選択30)	環境サイエンスコース科目 48単位 (必修4) (選択必修12) (選択32)
フリーゾーン 8単位	フリーゾーン 8単位	フリーゾーン 8単位	フリーゾーン 12単位	専攻フリーゾーン 4単位	専攻フリーゾーン 4単位	専攻フリーゾーン 4単位
				オールフリーゾーン 4単位	オールフリーゾーン 4単位	オールフリーゾーン 4単位

※注 教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目以上（2単位以上）修得する必要があります。

## ■卒業要件単位数と内訳

### (1) 政策学部内コース：政策構想コース

区分		卒業要件単位数		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教育科目で18単位以上超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。
		社会科学系科目	2単位	
		自然科学系科目	2単位	
選択科目		12単位以上		
政策学部 専攻科目	学部必修科目 2単位			
	コースコア科目 42単位以上 (コース必修科目2単位を含む)		42単位以上、超過履修した場合は、コースコア科目以外の政策学部専攻科目で認定します。	
	コースコア科目以外の 政策学部専攻科目 38単位以上		38単位以上、超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。	
フリーゾーン	8単位以内		卒業要件単位数を超えて取得した教養教育科目・政策学部専攻科目の合計単位数を認定します。	
合計	124単位			

### (2) 政策学部内コース：環境創造コース・地域公共人材コース

区分		卒業要件単位数		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教育科目で18単位以上超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。
		社会科学系科目	2単位	
		自然科学系科目	2単位	
選択科目		12単位以上		
政策学部 専攻科目	学部必修科目 2単位			
	コースコア科目 38単位以上 (コース必修科目2単位を含む)		38単位以上、超過履修した場合は、コースコア科目以外の政策学部専攻科目で認定します。	
	コースコア科目以外の 政策学部専攻科目 42単位以上		42単位以上、超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。	

フリーゾーン	8単位以内	卒業要件以上に超過履修した教養教育科目・政策学部専攻科目の合計単位を認定します。
合計	124単位	

### (3) 学部共通コース：国際関係コース

区分		卒業要件単位		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教育科目で16単位以上超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。
		社会科学系科目	2単位	
		自然科学系科目	2単位	
選択科目		10単位以上		
コース科目	44単位以上		【内訳】 ・必修科目4単位 ・選択必修科目4単位 ・選択科目24単位 ・学部提供科目12単位	
政策学部 専攻科目	36単位以上		36単位以上、超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。 【内訳】 ・学部必修科目2単位 ・学部専攻科目34単位	
フリーゾーン	12単位以内		卒業要件以上に超過履修した教養教育科目・コース専攻科目・政策学部専攻科目の合計単位を認定します。	
合計	124単位			

### (4) 学部共通コース：英語コミュニケーションコース

区分		卒業要件単位		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教育科目で16単位以上超過履修した場合は、オールフリーゾーンで認定します。
		社会科学系科目	2単位	
		自然科学系科目	2単位	
選択科目		10単位以上		
コース科目	48単位以上		【内訳】 ・必修科目20単位 ・選択科目28単位	
政策学部 専攻科目	36単位以上		36単位以上、超過履修した場合は、学部/コース科目フリーゾーンで認定します。 【内訳】	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部必修科目2単位</li> <li>・学部専攻科目34単位</li> </ul>
専攻フリーゾーン	4単位以内	卒業要件単位数を超過して修得したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。4単位を超過して修得した単位は、オールフリーゾーンで認定します。
オールフリーゾーン	4単位以内	卒業要件単位数を超過して修得した教養教育科目、または専攻フリーゾーンの上限を超過したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。
合計	124単位	

#### (5) 学部共通コース：スポーツサイエンスコース

区分		卒業要件単位		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超過して修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教育科目で24単位以上超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。
		社会科学系科目	2単位	
		自然科学系科目	2単位	
選択科目		18単位以上		
コース科目	40単位以上		<b>【内訳】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択必修科目10単位</li> <li>・選択科目30単位</li> </ul>	
政策学部 専攻科目	36単位以上		36単位以上、超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。 <b>【内訳】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部必修科目2単位</li> <li>・学部専攻科目34単位</li> </ul>	
専攻フリーゾーン	4単位以内		卒業要件単位数を超過して修得したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。4単位を超過して修得した単位は、オールフリーゾーンで認定します。	
オールフリーゾーン	4単位以内		卒業要件単位数を超過して修得した教養教育科目、または専攻フリーゾーンの上限を超過したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。	
合計	124単位			

#### (6) 学部共通コース：環境サイエンスコース

区分		卒業要件単位		備考
教養教育科目	仏教の思想A 仏教の思想B	4単位		
	必修外国語	12単位		外国語科目の中から、必修外国語科目（英語・初修外国語）を12単位修得してください（選択外国語科目は教養科目として認定します）
	教養科目	人文科学系科目	2単位	「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超過して修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定します。教養教
		社会科学系科目	2単位	

		自然科学系科目	2単位	育科目で16単位以上超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。
		選択科目	10単位以上	
コース科目		48単位以上		【内訳】 ・必修科目4単位 ・選択必修科目12単位 ・選択科目32単位
政策学部 専攻科目		36単位以上		36単位以上、超過履修した場合は、フリーゾーンで認定します。 【内訳】 ・学部必修科目2単位 ・学部専攻科目34単位
専攻フリーゾーン		4単位以内		卒業要件単位数を超過して修得したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。4単位を超過して修得した単位は、オールフリーゾーンで認定します。
オールフリーゾーン		4単位以内		卒業要件単位数を超過して修得した教養教育科目、または専攻フリーゾーンの上限を超過したコース科目・政策学部専攻科目の単位を認定します。
合計		124単位		

## 【5】先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

### 〈政策学部専攻科目〉

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
コンテンツビジネス実践Ⅱ	コンテンツビジネス実践Ⅰ
政策実践・探究演習ⅡA（国内）	政策実践・探究演習ⅠA（国内）（4単位）
政策実践・探究演習ⅡB（国内）	政策実践・探究演習ⅠB（国内）（4単位）
政策実践・探究演習ⅡA（海外）	政策実践・探究演習ⅠA（海外）（4単位）
政策実践・探究演習ⅡB（海外）	政策実践・探究演習ⅠB（海外）（4単位）

## 【6】グレイドナンバー制

政策学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。

みなさんは学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

基礎 → 応用

グレイド	100	200	300	400	500	600
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

## 【7】科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、別途記載の開設科目一覧を確認してください。

## 【8】コース制

大学での学修は、卒業要件を満たすだけでは十分とはいえません。そこで系統だった学修のために、政策学部ではコース制を採用しています。

政策学部の学生は、政策学内コース、または、政策学部・法学部・経済学部・経営学部・社会学部を対象に開設されている学部共通コースの中から、必ずいずれかのコースに所属しコースに応じた卒業要件を満たさなければなりません。なお、所属の学部学科を問わずいずれのコースも選択可能です。

コース制は第4セメスターより開始されますので、第3セメスターにおいて、いずれのコースに所属するかを決定する必要があります。

# 政策学部専攻科目の教育目的および履修方法

政策学部では、政策学の専門性を身につけ、社会における課題の発見と解決に自立的に取り組む、教養と市民性ある人材を養成するための、知識、スキル、志向性、能力を獲得する科目を配置しています。

## ◆学部共通コースから政策学内コースへの変更

政策学部では、履修の手引きとして「政策ナビ」を設定しています。政策ナビとは、政策学部で身につけてもらいたい基本的資質について説明するとともに、その資質を身につけるための科目を一覧にまとめたものです。

この「政策ナビ」を具体的な履修の手懸かりとして、適切な履修による学修を進めてください。

政策学部が教育の対象とする領域は幅広く学際的なものです。したがって、履修の各段階において、領域の幅広さと各領域の奥深さを可視化し、学修の積み上げによってそれらをともに獲得できるよう、教育課程を体系的に編成しています。

専攻科目については、以下のとおり区分して、順次性のある教育を行います。

## 学修課程上の区分

区分	科目区分の特徴及び科目
専攻導入科目	政策学部の導入教育にあたる科目です。 基礎演習等の少人数の演習科目では、政策学を学ぶうえで求められる基礎的な能力を、第1 Semesterから第4 Semesterに配置される講義科目では、政策学の前提となる基礎的な知識を学びます。
専攻基本科目	第2 Semester及び第3 Semesterを中心に第1 Semesterから第4 Semesterに配置される、政策学の基本を学ぶ科目です。 専攻導入科目による学修の技法の修得とあわせ、政策学の領域を構成する学問分野の基本を学びます。
専攻コース科目	第3 Semesterでは総論を、第4 Semester以降は専攻分野の専門性を深める科目です。社会における政策課題の発見及び解決とその過程に求められる政策学的専門性の修得をめざします。
専門演習	政策学部における少人数の演習科目です。 政策学部の演習科目は、系統的に連続して設定されています。学修のコミュニティを形成し、学びの動機と自立性の向上、履修科目の適切な選択、他者とともに課題の解決に連携して取り組む能力を養成します。

## 【1】必修科目

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず修得しなければならない科目です。政策学部専攻科目では、以下の科目を必修科目としています。政策学部生全員が卒業のために、必ず修得しなければならない科目ですので、当該 Semesterにおいて必ず履修してください。

配当 Semester	科目名
第2 Semester	政策学を学ぶ

## 【2】履修指導科目

履修指導科目とは、必修科目ではありませんが、専攻科目を4年間学修するうえで特に必要となるものを履修するよう指導している科目です。以後の学修のために、当該セメスターにおいて必ず履修してください。

配当セメスター	科目名
第1セメスター	基礎演習Ⅰ，現代社会の市民性を学ぶ，政策学入門（政治学），政策学入門（経済学）
第2セメスター	基礎演習Ⅱ，持続可能性と共生を学ぶ，政策学入門（法律学）
第3セメスター	コミュニケーション・ワークショップ演習

## 【3】学部内コース選択後の科目

### （1）コース必修科目

政策学部内コースを選択した場合に、必ず修得しなければならない科目です（コースについては、「コース制」を参照してください）。

これらのコース必修科目は、第3セメスターに配当されていますので、関心のあるコースの総論を学ぶことにより、第4セメスター以降のコース選択の際の参考にもなります。

コース名	配当セメスター	科目名	単位
政策構想コース	第3セメスター	地域・都市政策総論	2
環境創造コース	第3セメスター	環境政策総論	2
地域公共人材コース	第3セメスター	地域公共人材総論	2

### （2）コースコア科目

政策学部内コースを選択した後に、コースの専門を学ぶ上で特に核（コア）となる科目です。各コースにはコア科目が設定されています（「政策学部開設科目一覧」参照）。また、コースによって、卒業に必要なコア科目の単位数が異なります。

コース名	卒業に必要なコア科目の単位
政策構想コース	42単位（コース必修科目2単位を含む）
環境創造コース	38単位（コース必修科目2単位を含む）
地域公共人材コース	38単位（コース必修科目2単位を含む）

※上記単位数を越えた場合は専攻科目として集計されます。

### 履修上の注意

①「政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ」は【上限8単位】まで政策構想コースおよび地域公共人材コースのコア科目として認定します。それ以上履修した場合には、コア科目以外の政策学部専攻科目として認定します。

## 【4】コース制

コース制は、学修の目標を明確にすること、系統的な科目履修を積極的に進めていくことを目的とした制度です。コースには、政策学部内に開設されている政策学部独自の「政策学部内コース」と、政策学部・法学部・経済学部・経営学部・社会学部の5学部横断的に開設されている「学部共通コース」があり、そのいずれかのコースに所属して学修を深めていくことになります。それぞれのコースによって、卒業要件や科目の履修方法に違いがありますので、みなさんの学修目標に照らして適切なコースを選択することが必要です。

なお、政策学部の学生は、7つのコースのうち、必ず1つのコースに所属しなければなりません。

## (1) コースへの所属時期

コースへの所属は、第3セメスターにおいて申請し、第4セメスターから所属することになります。第3セメスター時に説明会をおこないますので、必ず参加してコースを選択してください。

## (2) コースの変更

コースのカリキュラム（教育課程）は、その所属から卒業までの間にわたって編成されていますので、いったんコースを登録した以上、最後までそのコースで履修を続けることが望ましいことは言うまでもありません。ただし、本人の適性や希望進路の変更等により、コースを変更した方がよいと判断される場合には、例外的に変更を認めています。

コースを変更した場合には、既に修得した科目が、変更後のコースによっては卒業要件単位として認められず随意科目となる場合もありますので、注意が必要です。

### ◆政策学部内コースから政策学部内コースへの変更

第5セメスターの履修登録開始日までに演習担当教員と相談のうえ、コース変更スケジュール（Web等で確認すること）にしたがって変更届を提出してください。

### ◆学部共通コースから政策学部内コースへの変更

「コース離脱（変更）」を参照してください。

### ◆政策学部内コースから学部共通コースへの変更

この場合のコース変更はできません。

## 【5】政策学部内コース

政策学部では、3つのコースを開設しています。政策学部内コースを選んだ場合、関心のある分野及び進路に応じて、以下の3コースのうち1コースに所属します。コースの所属により、専門性を深めることができます。

コース名
政策構想コース ○地域・都市政策プログラム ○国際・比較政策プログラム
環境創造コース
地域公共人材コース

## (1) 政策構想コース

### ①政策構想コースについて

政策課題となる社会問題は、地域再生、雇用・福祉、持続可能な発展など多岐にわたります。これらを解決するためには、世界と日本、政府と地方自治体、地方行政と地域社会など、グローバルな視点からローカル、個人に至るまで、複雑に入り組んだ関係を理解しなければなりません。本コースでは、このような関係性を理解する認識能力、政策課題の解決能力を身につけ、「理論」と「実践」のバランスがとれた実社会で役立つ政策学を修得します。

### ②政策構想コースのプログラムについて

政策構想コースは、多岐にわたる科目を設置しているため、より専門性を高めることができるよう科目群を2つの分野に整理したプログラムを開設しています。

自分の関心に応じてプログラムに指定された科目を履修することによって、より体系的に学ぶことが可能となります。なお、プログラムの履修については、届け出る必要はありません。

#### (a) 地域・都市政策プログラム

協働型社会の実現へむけて課題と展望を学びながら、都市や農村など地域が抱える課題を発見し、社会と連携して解決するための能力を修得する体系になっています。

#### (b) 国際・比較政策プログラム

環境問題や地域政策などの政策課題が相互に関連していることをグローバルな視点で理解するとともに、各国の政策を比較論的な視点から検討することによって、地域から世界までに至る幅広い視野から課題解決に取り組むための能力を修得する体系になっています。

### ③政策構想コースの必修科目について

政策構想コースでは、以下の科目を必修科目として設定しています。必ず修得してください。

配当セメスター	科目名
第3セメスター	地域・都市政策総論

## (2) 環境創造コース

### ①環境創造コースについて

地球温暖化や食料問題など人類共通の課題を解決し、社会全般の持続可能な発展を実現するためには、その課題がもつ総合性をふまえ、幅広い視点に立った政策が必要です。本コースでは、環境負荷を軽減する生活形態を実現するために、市民団体、企業、政府など政策主体の新しい役割を創造し、それらと連携し解決するための能力を身につけます。

### ②環境創造コースの必修科目について

環境創造コースでは、以下の科目を必修科目として設定しています。必ず修得してください。

配当セメスター	科目名
第3セメスター	環境政策総論

## (3) 地域公共人材コース

### ①地域公共人材コースについて

地域社会および地域政策の担い手としての職業人となるための能力を身につけます。本コースでは、政策課題の発見、多角的視野からの政策構想、立案、実施に関わる市民、企業、自治体の政策主体としての活動を学修し、自立的に政策課題に取り組むための専門的で実践

的な能力を育成します。

## ②地域公共人材コースの必修科目について

地域公共人材コースでは、以下の科目を必修科目として設定しています。必ず修得してください。

配当セメスター	科目名
第3セメスター	地域公共人材総論

## (4) 学部共通コース

「学部共通コース」は、各コースの独自の科目と、本学で既に開講されている科目の中から各コースの趣旨や目的に沿った科目を選び、それらを体系化・組織化して提供するものです。学部共通コースは、「国際関係コース」「英語コミュニケーションコース」「スポーツサイエンスコース」「環境サイエンスコース」の4コースを開設しています。各コースの詳細な内容については、「学部共通コース」を参照してください。

## 【6】 演習科目

大学におけるもっとも大学らしい授業形態が少人数の演習（ゼミナール）です。教員が一方的に講義を進める講義科目とは対照的に、みなさんが中心となって学修を進めていくものです。演習科目は、1年次から4年次まで、段階的に学修を深めていくよう配置されています。必修科目ではありませんが、必ず履修し、積極的に参加してください。

### (1) 基礎演習Ⅰ＜第1セメスター＞

この演習は、大学4年間に有意義に過ごすためのノウハウを、少しでも早く獲得してもらうことを目的としています。

なお、この演習は、「履修指導科目」ですので必ず履修してください。所属する演習は、選択制ではなく指定クラスとなります。

### (2) 基礎演習Ⅱ＜第2セメスター＞

この演習は、これから本格的に政策学を学ぶために必要な能力を、無理なく修得することを目的としています。また、12月にクラス対抗の「基礎演習合同討論会」を開催し、みなさんの1年間の学修の成果を発揮できる機会を設けています。

なお、この演習は、「履修指導科目」ですので必ず履修してください。所属する演習は、選択制ではなく指定クラスとなります。原則、基礎演習Ⅰと同じクラスを指定します。

#### クラスサポーター制度について

基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱでは、「クラスサポーター制度」を採用しています。

クラスサポーターとは、みなさんの先輩にあたる上級生が、レポート等の課題への取り組み方、学生生活に関するアドバイス、クラス担当の先生との調整役など、さまざまな形でみなさんをサポートしてくれる強い味方です。政策学部の先輩が、自分たちの経験に則したきめ細やかなサポートをしてくれます。

### (3) コミュニケーション・ワークショップ演習＜第3セメスター＞

この演習は、大学での学修、ひいては参加・協働型社会に必要な対話・議論能力の育成をめざす科目です。単にグループディスカッションを行うのではなく、ワークショップ形式で、ディスカッションの観察を通して、議論の構造やプロセスを学びます。

なお、この演習は、「履修指導科目」ですので必ず履修してください。所属する演習は、選択制ではなく指定クラスとなります。

## (4) 演習Ⅰ＜第4・第5・第6 Semester＞

この演習は、政策学部における政策学の「専門演習」として位置づけています。1ゼミあたり15名程度で、複数のゼミから1つを選択【定員を超えて応募があったゼミでは選考を実施】することになります。政策学部の学修・学生生活の中心となる大変重要な科目ですので、必ず履修してください。なお、「演習Ⅰ」は第4 Semesterから第6 Semesterまでの3 Semesterを履修し、成績評価を受けることにより、6単位認定されます。

## (5) 演習Ⅱ（卒業研究を含む）＜第7・第8 Semester＞

この演習は、「演習Ⅰ」での学修をさらに深め、その集大成として卒業研究を制作するための「専門演習」として位置づけています。政策学部教育において最も重要であるといっても過言ではない科目ですので、必ず履修してください。

また、この演習は「演習Ⅰ」と同一教員のゼミで継続して履修することを原則としていますので、ゼミの変更はできません。ただし、やむを得ない事情によりゼミを変更したい場合は、演習Ⅰ申し込み時のコース・演習履修ガイドにしたがって手続きをしてください。

なお、「演習Ⅱ」と「卒業研究」は一体で合計4単位の科目です。「演習Ⅱ」または「卒業研究」のみの単位認定はされませんので注意してください。

### ◆編転入生の演習受講について

3年次に編転入学した学生を対象に、前期（第5 Semester）および後期（第6 Semester）の専門教育ゼミナールとして「演習Ⅰ（編転入）」（4単位）が開講されています。また、4年次（第7 Semester）におけるゼミ選択は、3年次前期（第5 Semester）に「演習Ⅰ（編転入）」を履修した場合、同一教員の「演習Ⅱ」を選択し履修してください。また、前期（第5 Semester）に「演習Ⅰ（編転入）」を履修していない場合も、「演習Ⅰ」ではなく「演習Ⅱ」から履修することになります。その際には別途申込みが必要です（申込方法については、第6 Semesterの10月までに、政策学部教務課で相談してください）。

## (6) 地域課題発見演習＜第1 Semester＞

この演習は、1年次生以上を対象に大学近隣の地域や様々な団体と連携しながら、実践活動に取り組む地域連携科目として開講します。地域住民や団体、行政機関への調査等を通じて地域の現状や課題を把握しながら、必要な取組を検討し、様々な団体との連携によって実践します。

## (7) キャリア・コミュニケーション演習＜第4 Semester＞

この演習では、政策学部のアクティブ・ラーニング科目を履修し進路決定に役立てた上年次生（学部生および院生）の報告やディスカッションを通して、キャリア形成の上で必要な知識やスキルについての理解を深めます。そして、地域課題を見抜き解決にむけた政策提言ができる人材像について考え、自身のキャリアデザインにつなげることをめざします。本科目は選択科目ですが、積極的に履修することをすすめます。

## (8) 企業のCSR実践演習＜第5 Semester＞

本演習は、社会に実在する課題をとりあげ、関係者へのヒアリングや関連する文献調査等を通じて解決策を考えるという課題解決型の授業（PBL：Project-based Learning）です。特に、本演習では企業の社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）を行っている企業の協力のもと、チームで当該企業のCSR推進策を検討し、経営者らに対して提案します。それにより、問題を深く考察する力、分析力、コミュニケーション能力、チームワークといった課題解決に必要な力やスキルに加え、企業経営に関する知識や能力の習得ができます。なお、本演習は選択科目ですが、自身のキャリアデザインにつながる科目ですから、積極的に履修することをすすめます。

## (9) グローカル戦略実践演習＜第6 Semester＞

この演習は、政策学部のCBL（Community Based Learning）科目の一つとして、開講される科目です。特にグローバルな視点の育成を主眼においています。①グローバルなビジネス・コミュニケーションの問題は、単に英語力（言語能力）の問題だけでなく、西洋とアジアのコミュニケーション・スタイルやその背後にある価値観の違い等の問題が根幹にあることを理解すること、②グローバル化する現代社会の中で、地場の中小企業もグローバル・ビジネスと直接繋がっていることを知り、今後どのような人材が必要とされるのかを現場経験

を通じて知ること、③京都の中小企業がグローバル化する過程で向き合う課題に焦点を絞り、課題の分析と解決に向けた提案力を養うことを目標とします。

## (10) 政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ<第4・第5・第6・第7・第8 Semester>

この演習は、政策学を実際の政策事例・フィールドワーク・談論によってより深く学ぶことを目的としています。この科目は、政策学部と政策学研究科をつなぐ科目であり、大学院生と共に受講することにより、研究の方法、奥深い思考や幅広い視野等、一歩進んだ学びを得ることができます。

なお、本科目は選択科目ですが、積極的に履修することをすすめます。

## (11) 政策実践・探究演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB<第3・第4・第5・第6 Semester>

この演習は、政策学部のPBL (Problem-based Learning) 科目の一つとして、開講される科目です。この演習では、具体的な政策プロジェクトに参画し、政策実践と政策探究 (調査研究) に取り組みます。この科目では、①具体的な政策プロジェクトに参画する能動的な学びを通じて、主体的な学習者になること、②現場体験を通じて社会的課題を発見する感性を育み、真理を探究する力を養成すること、③公共性を深く理解し、高い市民性を身につけることを目標とします。政策プロジェクトへの参画、地域での学び、外部の専門家との交流などを通じて、プロジェクト・マネジメント能力やコミュニケーション能力の養成、研究の方法、奥深い思考や幅広い視野等、一歩進んだ学びを得ることができます。なお、本科目は選択科目ですが、積極的に履修することをすすめます。

## (12) 学部共通コース演習

学部共通コース生を対象に開講される演習です。各コースによって、開講形態が異なりますので、学部共通コース「各コース」のページを参照してください。

# 【7】卒業研究について

## ■卒業研究の種類について

次の二つがあり、いずれかを選択できます。

A：卒業論文

B：卒業制作および作品解題

## ■卒業研究提出の流れについて

7月中旬 題目案を指導教員へ提出

11月上旬 仮題目をmanaba courseへ提出

1月上旬 卒業研究 (表紙・目次・本論・注・参考文献) をPDFファイルにし、manaba courseアンケートへ提出

※詳細は6月上旬にmanaba courseコースニュースでお知らせします。

## ■卒業研究の内容について

### A：卒業論文について

#### 1. 書式

##### 1) 卒業論文の執筆

(1) 卒業論文の執筆は、ワープロ (Microsoft Word) を使用してください。

(2) 単著を原則としますが、複数人での共同執筆も可とします。

①字数について、以下論文の分量を参考とし、演習担当教員の指導を受けたうえで適切な字数により提出するものとします。

②作業分担を記した資料を論文に添付してください。なお、成績評価は個別に行います。

## 2) 卒業論文の分量

各ページでの制限文字数は、以下のとおりです

表紙 目次	制限文字数に含みません
本論・注	ワープロ：A4用紙 40字×30行横書き10ページ以上
参考文献	制限文字数に含みません

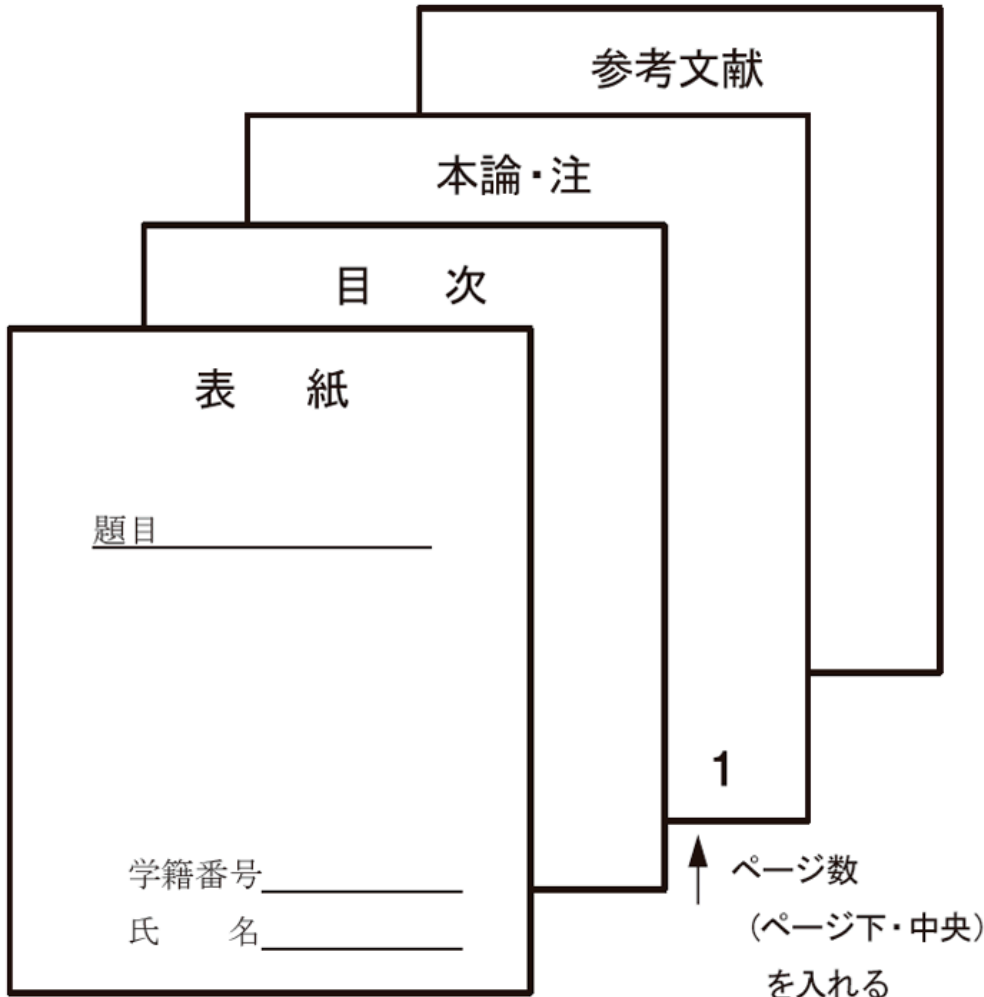
## 3) ワープロの書式設定

- (1) ファイル形式：PDFファイル
- (2) 1ページ文字数と行数：1行40字×30行=1,200字／ページ
- (3) 下限ページ数：10ページ（本論および注）
- (4) フォントサイズ（活字の大きさ）：10.5ポイント
- (5) 余白：上下左右30mm
- (6) ページ番号：ページの下・中央
- (7) ワープロの機種・ソフト上の制約等で問題が生じるときには、担当指導教員に相談してください。

## 2. 卒業研究の提出

- 1) 卒業研究は、1部提出です。※担当指導教員の指示により、紙媒体での提出を求められる場合があります。
- 2) PDFファイルは、表紙・目次を含め、1つのPDFファイルにし、提出してください。
- 3) 提出要領図を参照ください。

全て1つのPDFファイルにする



## B：卒業制作および作品解題について

### 1. 卒業制作の種類

制作は、論文という体裁を取らないもので、次の項目に該当するものを指します。

#### ①映像・音声作品

内容は指導教員の指導によります。

#### ②事業の企画、実践による成果物

内容は指導教員の指導によります。地域の政策課題に対する提言、都市計画・景観・建築にかかる模型等、フィールドワークによる調査報告等が該当します。

### 2. 卒業制作の態様

一人で制作する場合と、複数人が共同で制作する場合（以下「共同制作」）に分かれます。いずれも「作品解題」（後述）も合わせて提出することが要件になります。さらに、共同制作の場合は、「作業分担説明書」（後述）を「作品解題」に添付しなければなりません。

なお、共同制作の場合も、成績評価（判定）は個別に行います。

### 3. 作品解題

卒業制作の内容を詳しく論文の形式に沿って説明したもの。共同制作の場合も、一人ひとりが書かなければなりません。書式は「A論文」に準じます。ただし、分量は「5ページ以上」です。

#### 1) 作品解題の執筆

(1) 作品解題の執筆は、ワープロ（Microsoft Word）を使用して下さい。

#### 2) 作品解題の分量

各ページでの制限文字数は、以下のとおりです。

中表紙 目次	制限文字数に含みません
本論・注	ワープロ：A4用紙 40字×30行横書き5ページ以上
参考文献	制限文字数に含みません

#### 3) ワープロの書式設定

- (1) ファイル形式：PDFファイル
- (2) 1ページ文字数と行数：1行40字×30行=1,200字／ページ
- (3) 下限ページ数：5ページ（本論および注）
- (4) フォントサイズ（活字の大きさ）：10.5ポイント
- (5) 余白：上下左右30mm
- (6) ページ番号：ページの下・中央
- (7) ワープロの機種・ソフト上の制約等で問題が生じるときには、担当指導教員に相談してください。

### 4. 作業分担説明書

共同制作の場合のみ、「作品解題」に添付しなければなりません（1人の場合は必要ありません）。誰が何を担当したか、一覧表の形にしてください。書式は指導教員の指導に従ってください

### 5. 卒業制作および作品解題の提出

1) 提出物は次の通りです。

①卒業制作 1点

※事業の企画、実践による成果物については、写真や動画での撮影の上manaba course より提出してください。

※担当指導教員の指示により直接の提出を求められる場合もあります。

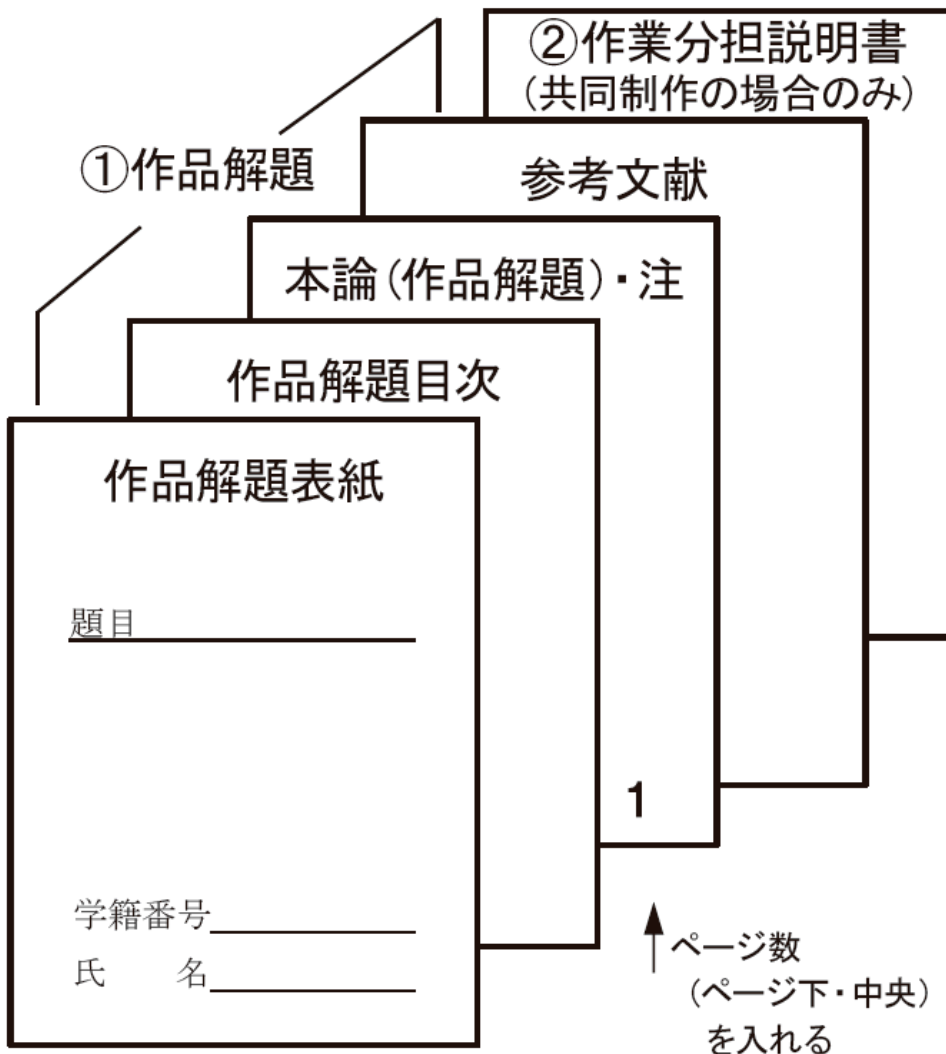
②作品解題 1部

③作業分担説明書（共同制作の場合のみ②に添付）

2) 上記②の作品解題は、「作品解題表紙」「作品解題目次」「本論（作品解題）」「注釈・参考文献」「作業分担説明書」の順としてください。

3) 提出要領図を参照ください。

全て1つのPDFファイルにする



## 【8】 教職課程教科に関する科目

政策学部生は、いずれのコース（学部内コース・学部共通コース）に所属しても、教職課程教科に関する科目について、一定の条件の下に、卒業要件単位（政策学部専攻科目）として認定します。ただし、政策学部のカリキュラム上の目的を達成するために、系統だったバランスの良い履修を心がけてください。

なお、教職課程の詳細は「教職課程ガイドブック」で確認してください。

## 【9】政策学部開設科目一覧

開講期は年度によって変更の可能性があります。年度ごとに発行する「時間割冊子」で確認してください。

### 政策学部開設科目一覧 <配当セメスター順>

● = 各コースのコア科目 ○ = 各プログラム指定科目

区分	科目名	単位	グレード	政策構想		環境創造	地域公共人材	備考
				共通	プログラム 地域・都市政策 国際・比較政策			
<b>第1セメスター（1年次・前期）</b>								
専攻導入	基礎演習Ⅰ	2	100					履修指導科目
専門演習	地域課題発見演習	4	100					
専攻導入	現代社会の市民性を学ぶ	2	100			●		履修指導科目
専攻導入	情報処理を学ぶ	2	100					
専攻基本	政策学入門（政治学）	2	100	●		●	●	履修指導科目
専攻基本	政策学入門（経済学）	2	100	●		●	●	履修指導科目
<b>第2セメスター（1年次・後期）</b>								
専攻導入	基礎演習Ⅱ	2	200					履修指導科目
専攻導入	政策学を学ぶ	2	200					【必修科目】
専攻導入	持続可能性と共生を学ぶ	2	200	●		●	●	履修指導科目
専攻導入	留学生入門演習	2	200					
専攻基本	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA (公共性・コミュニティ)	2	200	●		●	●	
専攻基本	政策学入門（法律学）	2	200	●		●	●	履修指導科目
専攻基本	政策学のための統計・数学	2	200	●		●	●	
専攻基本	地方自治論	2	200	●		●	●	
専攻基本	憲法Ⅰ	2	200	●		●	●	
専攻コース	矯正・保護入門	2	200					矯正・保護課程提供科目 ※5
<b>第3セメスター（2年次・前期）</b>								
専攻導入	コミュニケーション・ワークショップ演習	2	300					履修指導科目
専門演習	政策実践・探究演習ⅠA（国内）	4	300	●		●	●	※1
専門演習	政策実践・探究演習ⅠA（海外）	4	300	●		●	●	※1
専攻基本	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB (民主主義)	2	300	●		●	●	
専攻基本	行政学	2	300	●		●	●	
専攻基本	憲法Ⅱ	2	300	●		●	●	隔年開講
専攻基本	地域経済学	2	300	●		●	●	
専攻基本	財政学	2	300	●		●	●	
専攻コース	国際政治学	2	300	●		●		
専攻コース	経済学A（ミクロ経済学）	2	300	●				
専攻コース	地域・都市政策総論	2	300	●				【コース必修】 (政策構想コース)

区分	科目名	単位	グレード	政策構想			環境創造	地域公共人材	備考
				共通	プログラム				
					地域・都市政策	国際・比較政策			
専攻コース	環境政策総論	2	300				●		【コース必修】 (環境創造コース)
専攻コース	地域公共人材総論	2	300					●	【コース必修】 (地域公共人材コース)
専攻コース	地域ガバナンス論	2	300	●			●	●	
専攻コース	地方自治法	2	300	●				●	
専攻コース	都市計画論	2	300	●	○		●		
専攻コース	政策コミュニケーション論	2	300	●					
専攻コース	価値創造論	2	300	●			●	●	
専攻コース	地場産業論	2	300	●				●	
専攻導入	文章技法の基礎を学ぶ	2	300						
専攻コース	地域レジリエンス論	2	300	●				●	
専攻コース	コミュニティメディア政策	2	300	●	○		●	●	
専攻コース	保全生態学	2	300				●		
専攻コース	環境社会学	2	300	●			●		
専攻コース	欧州の環境政策	2	300				●		
専攻コース	地域公共人材特別講座 (新聞でつける考察力・文章力)	2	300						※ 6
専攻コース	コンテンツビジネス実践Ⅰ	2	300						経営学部提供科目
専攻コース	矯正概論	4	300						矯正・保護課程提供科目 ※ 5
専攻コース	更生保護概論	4	300						矯正・保護課程提供科目 ※ 5
専攻コース	矯正教育学	4	300						矯正・保護課程提供科目 ※ 5
<b>第 4 セメスター (2 年次・後期)</b>									
専門演習	演習Ⅰ (4 セメ)	6	400						※ 2
専門演習	キャリア・コミュニケーション演習	2	400	●				●	
専門演習	政策学研究発展演習Ⅰ	4	400	●				●	※ 3
専門演習	政策実践・探究演習Ⅰ B (国内)	4	400	●			●	●	※ 1
専門演習	政策実践・探究演習Ⅰ B (海外)	4	400	●			●	●	※ 1
専攻基本	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションC (平和構築)	2	400	●			●	●	
専攻基本	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD (人間の安全保障)	2	400	●			●	●	隔年開講 ※ 7
専攻導入	政策学のための文章技法	2	400						
専攻基本	環境経済学	2	400	●			●	●	
専攻コース	経済学 B (マクロ経済学)	2	400	●					
専攻コース	開発援助論	2	400	●			●		法学部提供科目
専攻コース	地方財政論	2	400	●				●	隔年開講 ※ 7
専攻コース	地域経済政策	2	400	●				●	
専攻コース	都市再生政策	2	400	●	○			●	
専攻コース	文化・観光政策	2	400	●	○				
専攻コース	景観・まちなみ保存政策	2	400	●	○		●	●	
専攻コース	比較地域政策論	2	400	●		○		●	
専攻コース	アジアの地域・都市政策	2	400	●		○	●		
専攻コース	アジアの環境政策	2	400				●		
専攻コース	科学技術政策	2	400				●		
専攻コース	政策史	2	400					●	

区分	科目名	単位	グレード	政策構想			環境創造	地域公共人材	備考
				共通	プログラム				
					地域・都市政策	国際・比較政策			
専攻コース	非営利非政府組織論	2	400	●			●	●	
専攻コース	国際法	2	400				●		
専攻コース	キャリアデザインのための企業研究	2	400						
専攻コース	環境社会政策論	2	400						
専攻コース	環境法政策	2	400						環境サイエンスコース提供科目
専攻コース	公共政策学	2	400	●			●	●	
専攻コース	公務員論	2	400					●	
専攻コース	比較社会政策	2	400	●		○		●	
専攻コース	地域公共人材特別講座 (京都市の産業と産業政策)	2	400						※ 6
専攻コース	地域公共人材特別講座 (地域価値創造論)	2	400						※ 6
専攻コース	民法入門	2	400						法学部提供科目
専攻コース	アジア政治論	2	400	●		○			法学部提供科目
専攻コース	刑事政策	2	400						法学部提供科目
専攻コース	労働法入門	2	400						法学部提供科目
専攻コース	コンテンツビジネス実践Ⅱ	4	400						経営学部提供科目
専攻コース	コンテンツビジネス論	2	400						経営学部提供科目
専攻コース	初級商業簿記	2	400						経営学部提供科目
専攻コース	更生保護制度	2	400						矯正・保護課程提供科目 ※ 5
専攻コース	犯罪学	2	400						矯正・保護課程提供科目 ※ 5
<b>第5セメスター (3年次・前期)</b>									
専門演習	演習Ⅰ (5セメ)	⑥	400						※ 2
専門演習	企業のCSR実践演習	2	500	●			●	●	
専門演習	政策学研究発展演習Ⅱ	4	500	●				●	※ 3
専門演習	政策実践・探究演習Ⅱ A (国内)	4	500						※ 1
専門演習	政策実践・探究演習Ⅱ A (海外)	4	500						※ 1
専攻コース	国際政治史	2	500						
専攻コース	健康政策	2	500	●	○				
専攻コース	グローバル・コミュニケーション英語A	2	500						隔年開講 ※ 7
専攻コース	グローバル・コミュニケーション英語B	2	500						隔年開講 ※ 7
専攻コース	政策評価論	2	500	●			●	●	
専攻コース	地域コミュニティ政策	2	500	●	○		●	●	
専攻コース	欧州の地域・都市政策	2	500	●		○	●		隔年開講 ※ 7
専攻コース	北米・中南米の地域・都市政策	2	500	●		○	●		隔年開講 ※ 7
専攻コース	政策過程論	2	500					●	
専攻コース	行政法	2	500	●			●	●	
専攻コース	農村地域再生政策	2	500				●	●	
専攻コース	環境エネルギー政策	2	500				●	●	
専攻コース	社会的企業論	2	500				●	●	
専攻コース	国際ビジネス論	2	500						
専攻コース	地域公共人材特別講座 (環境の仕事)	2	500				●	●	※ 6
専攻コース	交通運輸政策	2	500	●	○		●		
専攻コース	環境のための国際法	2	500				●		法学部提供科目

区分	科目名	単位	グ レ イ ド	政策構想			環 境 創 造	地 域 公 共 人 材	備 考
				共 通	プ ロ グ ラ ム				
					地 域 ・ 都 市 政 策	国 際 ・ 比 較 政 策			
専攻コース	行政争訟法	2	500					法学部提供科目	
専攻コース	ヨーロッパ政治論	2	500	●		○		法学部提供科目	
専攻コース	被害者学	4	500					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
専攻コース	成人矯正処遇	2	500					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
専攻コース	矯正社会学	4	500					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
専攻コース	犯罪心理学	4	500					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
<b>第6セメスター（3年次・後期）</b>									
専門演習	演習Ⅰ（6セメ）	⑥	600					※ 2	
専門演習	グローバル戦略実践演習	2	600						
専門演習	政策学研究発展演習Ⅲ	4	600	●			●	※ 3	
専門演習	政策実践・探究演習Ⅱ B（国内）	4	600					※ 1	
専門演習	政策実践・探究演習Ⅱ B（海外）	4	600					※ 1	
専攻コース	政策総合英語 A	2	600					隔年開講 ※ 7	
専攻コース	政策総合英語 B	2	600					隔年開講 ※ 7	
専攻コース	地球環境政策論	2	600			●			
専攻コース	言語政策	2	600	●					
専攻コース	国家補償法	2	600					隔年開講	
専攻コース	環境と法	2	600					法学部提供科目	
専攻コース	青少年問題	2	600					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
専攻コース	矯正医学	2	600					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
専攻コース	保護観察処遇	2	600					矯正・保護課程提供科目 ※ 5	
<b>第7セメスター（4年次・前期）</b>									
専門演習	演習Ⅱ（卒業研究含む）（7セメ）	4	600					※ 4	
専門演習	政策学研究発展演習Ⅳ	4	600	●			●	※ 3	
<b>第8セメスター（4年次・後期）</b>									
専門演習	演習Ⅱ（卒業研究含む）（8セメ）	④	600					※ 4	
専門演習	政策学研究発展演習Ⅴ	4	600	●			●	※ 3	

※1 「政策実践・探究演習」は前・後期もしくは後・前期の両方を履修することにより4単位認定されます。

なお、「政策実践・探究演習」のⅡは先修制を定めており、「政策実践・探究演習」のⅠの修得が履修の要件となります。また、「政策実践・探究演習」は【上限12単位まで】政策学部コア科目または政策学部専攻科目として認定します。

それ以上履修した場合は、随意科目（卒業要件には含まない単位）として認定します。

※2 政策学部専攻科目の「演習Ⅰ」は第4～第6セメスターの3セメスターを履修し成績評価を受けることにより6単位認定されます。

なお、政策学部専攻科目の「演習Ⅰ」は、履修登録制限単位数に含まます（各セメスター2単位でカウント）。

※3 「政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ」は【上限8単位まで】政策構想コースまたは地域公共人材コースのコア科目として認定します。それ以上履修した場合には、コア科目以外の政策学部専攻科目として認定します。

※4 政策学部専攻科目の「演習Ⅱ（卒業研究含む）」は、第7セメスターと第8セメスターで開講し、第8セメスター（1月）提出の「卒業研究」と合わせて4単位認定されます。

なお、政策学部専攻科目の「演習Ⅱ（卒業研究含む）」は、履修登録制限単位数に含まます（各セメスター2単位でカウント）。

※5 矯正・保護課程からの提供科目については、政策学部専攻科目として【上限4単位まで】認定します。それ以上履修した場合は、フリーゾーンとして認定されます。

また、矯正・保護課程が定める2つの要件（①開設科目のうち、16単位以上修得、②施設参観に2日以上参加）を満たした者には「矯正・保護課程修了証明書」を交付します。

詳しくは、履修要項「第3部諸課程-1. 諸課程-2. 特別研修講座・各種講座・試験について」の「矯正・保護課程」の箇所を確認してください。

※6 「地域公共人材特別講座」は【上限12単位】まで認定します。それ以上の履修は認められません。

※7 「グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD（人間の安全保障）」と「地方財政論」、「グローバルコミュニケーション英語A」と「グローバルコミュニケーション英語B」、「欧州の地域・都市政策」と「北米・中南米の地域・都市政策」、「政策総合英語A」

と「政策総合英語B」がそれぞれ毎年交互に開講します（担当者の都合により変更となる可能性もあります）。

## 【10】科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。政策学部開講科目のナンバリングコードは次のとおりです。

例)「基礎演習Ⅰ」の科目ナンバリングである「H-01-SEM-1-1-P」の場合、①政策学部②政策学科開講、③ゼミナール科目分類、④大学1年次の難易度、⑥演習形式で実施される科目であることを示します。

①	②	③	④	⑤	⑥
開講学部	主開講学科	科目分類(略号)	難易度 (科目の水準)	通し番号	授業形態
H	01	SEM	1	1	P
H: 政策学部	01: 政策学科	「ナンバリング 科目略号表」で 確認してください。	0: 随意科目 1: 1年次配当 2: 2年次配当 3: 3年次配当 4: 4年次配当		L: 講義 P: 演習 AL: 実習

科目名	科目ナンバリング
基礎演習Ⅰ	H-01-SEM-1-1-P
基礎演習Ⅱ	H-01-SEM-1-2-P
コミュニケーション・ワークショップ演習	H-01-CST-2-1-P
留学生入門演習	H-01-SEM-1-3-P
演習Ⅰ	H-01-SEM-2-4-P
演習Ⅱ(卒業研究含む)	H-01-SEM-4-5-P
キャリア・コミュニケーション演習	H-01-CST-2-2-AL
グローバル戦略実践演習	H-01-MAN-3-1-AL
企業のCSR実践演習	H-01-MAN-3-2-AL
政策学研究発展演習Ⅰ	H-01-POS-2-1-P
政策学研究発展演習Ⅱ	H-01-POS-3-2-P
政策学研究発展演習Ⅲ	H-01-POS-3-3-P
政策学研究発展演習Ⅳ	H-01-POS-4-4-P
政策学研究発展演習Ⅴ	H-01-POS-4-5-P
政策実践・探究演習ⅠA(国内)	H-01-ARS-2-1-AL
政策実践・探究演習ⅠA(海外)	H-01-ARS-2-2-AL
政策実践・探究演習ⅡA(国内)	H-01-ARS-3-3-AL
政策実践・探究演習ⅡA(海外)	H-01-ARS-3-4-AL
政策実践・探究演習ⅠB(国内)	H-01-ARS-2-5-AL
政策実践・探究演習ⅠB(海外)	H-01-ARS-2-6-AL
政策実践・探究演習ⅡB(国内)	H-01-ARS-3-7-AL
政策実践・探究演習ⅡB(海外)	H-01-ARS-3-8-AL
地域課題発見演習	H-01-ARS-1-9-AL
政策学を学ぶ	H-01-POS-1-6-L
現代社会の市民性を学ぶ	H-01-POS-1-7-L
持続可能性と共生を学ぶ	H-01-POS-1-8-L
情報処理を学ぶ	H-01-POI-1-1-AL
グローバル・シチズンシップA(公共性・コミュニティ)	H-01-SOC-1-1-L
グローバル・シチズンシップB(民主主義)	H-01-POL-2-1-L
グローバル・シチズンシップC(平和構築)	H-01-INR-2-1-L
グローバル・シチズンシップD(人間の安全保障)	H-01-INR-2-2-L
政策学入門(政治学)	H-01-POL-1-2-L
政策学入門(経済学)	H-01-ECT-1-1-L

科目名	科目ナンバリング
欧州の環境政策	H-01-EPS-2-2-L
アジアの環境政策	H-01-EPS-2-3-L
科学技術政策	H-01-SHS-2-1-L
政策史	H-01-POL-2-8-L
非営利非政府組織論	H-01-MAN-2-4-L
国際法	H-01-ILA-2-1-L
キャリアデザインのための企業研究	H-01-MAN-2-5-L
政策学のための文章技法	H-01-JLN-2-2-L
環境社会政策論	H-01-EPS-2-4-L
環境法政策	H-01-EPS-2-5-L
国際政治史	H-01-INR-3-4-L
グローバル・コミュニケーション英語A	H-01-ENL-3-2-L
グローバル・コミュニケーション英語B	H-01-ENL-3-3-L
政策総合英語A	H-01-ENL-3-4-L
政策総合英語B	H-01-ENL-3-5-L
政策評価論	H-01-POL-3-9-L
地域コミュニティ政策	H-01-ARS-3-12-L
比較社会政策	H-01-SOC-2-3-L
欧州の地域・都市政策	H-01-ARS-3-13-L
北米・中南米の地域・都市政策	H-01-ARS-3-14-L
交通運輸政策	H-01-CEP-3-1-L
保全生態学	H-01-ECE-2-1-L
環境社会学	H-01-SOC-2-4-L
政策過程論	H-01-POL-3-10-L
公務員論	H-01-POL-2-11-L
公共政策学	H-01-POL-2-12-L
行政法	H-01-LAW-3-5-L
農村地域再生政策	H-01-SOC-3-5-L
環境エネルギー政策	H-01-ENE-3-1-L
社会的企業論	H-01-MAN-3-6-L
国際ビジネス論	H-01-CME-3-2-L
地球環境政策論	H-01-SES-3-1-L

科目名	科目ナンバリング
政策学入門（法律学）	H-01-LAW-1-1-L
行政学	H-01-POL-2-3-L
政策学のための統計・数学	H-01-ECS-1-1-L
地方自治論	H-01-POL-1-2-L
憲法Ⅰ	H-01-LAW-1-2-L
憲法Ⅱ	H-01-LAW-2-3-L
環境経済学	H-01-ECP-2-1-L
地域経済学	H-01-ECP-2-2-L
財政学	H-01-PFP-2-1-L
国際政治学	H-01-POL-2-5-L
経済学A（ミクロ経済学）	H-01-ECT-2-2-L
経済学B（マクロ経済学）	H-01-ECT-2-3-L
地域・都市政策総論	H-01-TPA-2-1-L
環境政策総論	H-01-EPS-2-1-L
地域公共人材総論	H-01-POS-2-9-L
地域ガバナンス論	H-01-POL-2-6-L
地方自治法	H-01-LAW-2-4-L
都市計画論	H-01-TPA-2-2-L
政策コミュニケーション論	H-01-LIN-2-1-L
価値創造論	H-01-CME-2-1-L
地場産業論	H-01-MAN-2-3-L
文章技法の基礎を学ぶ	H-01-JLN-2-1-L
開発援助論	H-01-INR-2-3-L
地方財政論	H-01-PFP-2-2-L
地域経済政策	H-01-ECP-2-3-L
都市再生政策	H-01-TPA-2-3-L
健康政策	H-01-HPH-3-1-L
文化・観光政策	H-01-ARS-2-10-L
コミュニティメディア政策	H-01-SOC-2-2-L
景観・まちなみ保存政策	H-01-AHD-2-1-L
比較地域政策論	H-01-POL-2-7-L
アジアの地域・都市政策	H-01-ARS-2-11-L

科目名	科目ナンバリング
言語政策	H-01-FLE-3-1-L
地域レジリエンス論	H-01-NDD-2-1-L
中国政治論	H-01-POL-2-13-L
刑事政策	H-01-CRL-2-1-L
民法入門	H-01-CIL-2-1-L
ヨーロッパ政治論	H-01-POL-3-14-L
国際環境法	H-01-NFL-3-1-L
行政争訟法	H-01-PUL-3-1-L
労働法入門	H-01-SOL-2-1-L
国家補償法	H-01-PUL-3-2-L
環境と法	H-01-EPS-3-6-L
コンテンツビジネス実践Ⅰ	H-01-SOC-2-6-L
コンテンツビジネス実践Ⅱ	H-01-SOC-2-7-L
コンテンツビジネス論	H-01-ECH-2-1-L
初級商業簿記	H-01-ACC-2-1-L
矯正概論	H-01-CRL-2-2-L
更生保護概論	H-01-CRL-2-3-L
更生保護制度	H-01-CRL-2-4-L
成人矯正処遇	H-01-CRL-3-5-L
保護観察処遇	H-01-CRL-3-6-L
矯正教育学	H-01-CRL-2-7-L
矯正社会学	H-01-CRL-3-8-L
犯罪心理学	H-01-CRL-3-9-L
矯正医学	H-01-CRL-3-10-L
犯罪学	H-01-CRL-2-11-L
被害者学	H-01-CRL-3-12-L
矯正・保護入門	H-01-CRL-1-13-L
青少年問題	H-01-CRL-3-14-L
地域公共人材特別講座（京都市の産業と産業政策）	H-01-ECP-2-4-P
地域公共人材特別講座（地域価値創造論）	H-01-MAN-2-7-AL
地域公共人材特別講座（新聞でつげる考察力・文章力）	H-01-MST-2-1-P
地域公共人材特別講座（環境の仕事）	H-01-EPS-3-7-P

【参考】ナンバリング科目 略号表（政策学部使用コードのみ）

科目分類	略号
会計学	ACC
建築史・意匠	AHD
地域研究	ARS
土木計画学・交通工学	CEP
民事法学	CIL
商学	CME
刑事法学	CRL
コミュニケーション研究	CST
生態・環境	ECE
経済史	ECH
経済政策	ECP
経済統計	ECS
理論経済学	ECT
エネルギー学	ENE
英語学	ENL
環境政策・環境社会システム	EPS
外国語教育	FLE
衛生学・公衆衛生学	HPH
国際法学	ILA

科目分類	略号
国際関係論	INR
日本語学	JLN
法学	LAW
言語学	LIN
経営学	MAN
メディア研究	MST
自然災害科学・防災学	NDD
新領域法学	NFL
財政・公共経済	PFP
情報学基礎	POI
政治学	POL
政策学	POS
公法学	PUL
ゼミナール	SEM
環境創成学	SES
科学社会学・科学技術史	SHS
社会学	SOC
社会法学	SOL
都市計画・建築計画	TPA

## 【11】政策力ナビ

政策学部では、履修の手引きとして「政策ナビ」を設定しています。政策ナビとは、政策学部で身につけてもらいたい基本的資質について説明するとともに、その資質を身につけるための科目を一覧にまとめたものです。

この「政策ナビ」を具体的な履修の手懸かりとして、適切な履修による学修を進めてください。

## ■真実を探究する基礎能力「他者とともに社会を変える能力」

ナビ	内容	科目		ガイド
		教養科目	専攻科目	
視点・眼力	政策学部は、真実を探究し、他者とともに社会を変える能力を身につけた人を育てたいと願っています。そうした人は、公共性を深く理解し、市民性を身につけた自立的な個人であり、そして、豊かな人間性と高い倫理性を備えている人です。建学の精神を踏まえた真実を探究し、他者とともに社会を変える能力の基礎となる視点ものの見方・考え方を獲得しましょう。	仏教の思想 A, 生態学のすすめ, 里山学, 日本の自然, 国際学のすすめ, 社会学のすすめ, 人権論 A, 地理学のすすめ, 環境学	政策学入門 (政治学), 政策学入門 (経済学), 基礎演習 I, 現代社会の市民性を学ぶ, 地域課題発見演習	100
		仏教の思想 B	政策学を学ぶ, 政策学入門 (法律学), 持続可能性と共生を学ぶ, GCE (公共性・コミュニティ), 基礎演習 II, 憲法 I, 地方自治論	200
		地域論	GCE (民主主義), GCE (平和構築), 行政学, CWS 演習, 憲法 II, 地域経済学, 環境政策総論, 地域ガバナンス論, 地域レジリエンス論, 財政学	300
			環境経済学, 地域経済政策, 公共政策学, 公務員論, GCE (人間の安全保障), 地域公共人材特別講座 (京都市の産業と産業政策)	400
分析調査	そうしたものの見方・考え方の基礎を身につけた上で、しっかりと分析能力、調べる力を身につけなければ、真実の探究はままなりません。そのためには、広範な社会科学の基礎を身につけ、幅広い教養と政策学に関する専門知識を身につける必要があります。	社会調査のすすめ, 社会統計学のすすめ, データサイエンス・AI 入門	政策学入門 (政治学), 基礎演習 I, 情報処理を学ぶ	100
			政策学を学ぶ, 基礎演習 II, 政策学のための統計・数学	200
			CWS 演習, 環境政策総論, 価値創造論	300
			政策学研究発展演習, 環境経済学, アジアの環境政策	400
考える・思考 表現する・提示する	政策学部で学ぶと、人類的課題や地域的課題に対して、持続可能な発展という視点から課題を捉え、社会と連携し市民の協働によって解決するという見方をとることができるようになります。公共性を深く理解し、市民性に基づいて、多角的な思考と判断ができるようになる考える力を身につけましょう。	クリティカル・シンキング	政策学入門 (政治学), 政策学入門 (経済学), 基礎演習 I, 現代社会の市民性を学ぶ, 地域課題発見演習	100
			政策学を学ぶ, 政策学入門 (法律学), GCE (公共性・コミュニティ), 基礎演習 II, 持続可能性と共生を学ぶ, 憲法 I, 地方自治論	200
		現代社会の諸問題, 人文科学セミナー	GCE (民主主義), CWS 演習, 財政学, 行政学, 憲法 II, 地域経済学, 経済学 A, 経済学 B, 環境政策総論, 地域ガバナンス論, 地方自治法, 地域レジリエンス論	300
			GCE (人間の安全保障), GCE (平和構築), 政策学研究発展演習, 環境経済学, 地域経済政策, 公共政策学, 公務員論, 地域公共人材特別講座 (京都市の産業と産業政策)	400
実践・イノベーション	社会的責務に対する自覚をもち、自ら問題を発見し、社会と連携しながら解決に当たれる人になりましょう。		基礎演習 I, 地域課題発見演習	100
			基礎演習 II	200
			アジアの環境政策	400

## ■政策構想コース地域・都市政策プログラム「地域・都市を元気にする人になる」

ナビ	内容	科目		グレード
		専攻科目	専攻(AL)科目	
視点・眼力	【地域の魅力、資源、課題に気づく力】 歴史、風土、文化、人材、風景・町並み、人びとのつながりなどの地域資源を見る目を養い、都市や農村など地域が抱える課題を発見する力を身につけます。	政策学入門（経済学）		100
		地域経済学、財政学、地域ガバナンス論、政策コミュニケーション論、地場産業論、地域レジリエンス論、地域・都市政策総論		300
		GCE（人間の安全保障・平和構築）、地域経済政策、キャリアデザインのための企業研究、環境社会政策論、公務員論、地域公共人材特別講座（京都市の産業と産業政策）、地方財政論、都市再生政策、非営利非政府組織論		400
		企業のCSR実践演習、地域コミュニティ政策、国際ビジネス論、交通運輸政策、政策過程論		500
分析調査	【地域社会の現状や課題を分析し、理解する力】 協働型社会の実現に向けて、地域・都市の構造（制度、時間、空間）と社会の仕組みを分析し、見通す力を身につけます。	価値創造論、地場産業論	政策実践・探究演習 ⅠA・ⅡA、 ⅠB・ⅡB	300
		政策史、文化・観光政策、景観・まちなみ保存政策、アジアの環境政策、キャリアデザインのための企業研究		400
		企業のCSR実践演習		500
考える・思考 表現する・提示する	【地域・都市の将来像を考え、課題解決に向けた政策を示す力】 地域・都市の持続可能性を実現するために、過去の政策に学び、未来の地域・都市を考える力を養います。	地域経済学、地域ガバナンス論、地場産業論、地域レジリエンス論、コミュニティメディア政策	政策学研究 発展演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ・Ⅴ	300
		GCE（人間の安全保障）、地域経済政策、キャリアデザインのための企業研究、公務員論、地域公共人材特別講座（京都市の産業と産業政策）		400
		企業のCSR実践演習、健康政策、グローバルコミュニケーション英語A・B、行政法		500
		グローバル戦略実践演習		600
		政策総合英語A・B		600
実践・イノベーション	【地域・都市が抱える課題に対して人々と具体的な解決策を作り、動かしていく力】 地域・都市を元気にしていくために、他者と連携、協力して解決を目指し、協働型社会の一員となることを目指します。	地場産業論		300
		キャリア・コミュニケーション演習、アジアの環境政策、キャリアデザインのための企業研究、環境社会政策論		400
		企業のCSR実践演習、社会的企業論		500
		グローバル戦略実践演習		600

■政策構想コース国際・比較政策プログラム「世界の知恵や経験を活かせる人になる」

ナビ	内容	科目			グレード
		教養科目	専攻科目	専攻 (AL) 科目	
視点・眼力	【幅広い視点で世界に目を向ける力】 地域再生、雇用・福祉、持続可能な発展など、様々な社会問題を、世界と日本、政府と地方自治体、地方行政と地域社会など、様々な視点から理解します。	国際社会論	GCE (民主主義), 地域経済学, 財政学, 政策コミュニケーション論, 国際政治学, 環境社会学		300
			GCE (人間の安全保障・平和構築), 地域経済政策, 比較地域政策論, 環境社会政策論, 公共政策学, 国際法, 比較社会政策		400
			政策評価論, 国際ビジネス論, 政策過程論		500
			言語政策		600
分析調査	【世界の文化や制度、現状や課題を知り比較する力】 環境問題や地域政策などの政策課題が相互に関連していることをグローバルな視点で理解し、各国の政策を比較的な視点から分析します。	ヨーロッパの歴史 A, アメリカの歴史 A, B, 欧米の文化 A, B, アジアの文化 A, B, アジアの歴史 A, B, 現代のヨーロッパ A, B		政策実践・探究演習 I A・II A, I B・II B	200
		ヨーロッパの歴史 B, C	価値創造論		300
			国際法, アジアの地域・都市政策, アジアの環境政策, 欧州の環境政策		400
			国際政治史, 欧州の地域・都市政策, 北米・中南米の地域・都市政策, ヨーロッパ政治論	政策学研究 発展演習 I・II・III IV・V	500
考える・思考 表現する・提示する	【地域・都市の将来像を見据え、世界に通じる政策を考える力】 日本の地域・都市づくりの特徴と限界をグローバルな視点で考え、持続可能な社会を目指した社会構造の転換について考える力を養います。		地域経済学, 財政学, 地域ガバナンス論		300
			GCE (人間の安全保障・平和構築), 地域経済政策, 公共政策学, 開発援助論		400
			グローバル・コミュニケーション英語 A・B, 政策評価論		500
			グローバル戦略実践演習, 政策総合英語 A・B		600
実践・イノベーション	【地域から世界に至るまで幅広い視野で課題解決に取り組む力】 社会問題は、国内外問わず、様々な形で複雑に関連しています。世界の知恵や経験を活かして、グローバルな視野を持ちつつ、ローカルな課題にも取り組んでいきましょう。				300
			キャリア・コミュニケーション演習, 比較地域政策論, アジアの環境政策, 環境社会政策論		400
					500
			グローバル戦略実践演習		600

■地域公共人材コース「地域の未来をひらくひとになる」

ナビ	内容	科目			グレード
		教養科目	専攻科目	専攻 (AL) 科目	
視点・眼力	【地域と世界の多様なひとびとの目で課題をとらえる力】  暮らしの現場では課題は互いにかみあひ、子育ての問題が介護の問題であったり、地域の課題が世界につながってたりします。それをめぐってさまざまな立場や価値観、思いやアイデアをもつ人がいます。幅広い目線、多くの視点から課題をとらえる力を養います。		地域経済学, 財政学, 地域公共人材総論, 地域レジリエンス論		300
			GCE (人間の安全保障・平和構築), 地域経済政策, 比較地域政策論, キャリアデザインのための企業研究, 環境社会政策論, 地方財政論, 非営利非政府組織論		400
			農村地域再生政策, 国際ビジネス論, 地域公共人材特別講座 (環境の仕事)		500
分析調査	【課題の構造とそれをとりまく資源を把握する力】  からみあう課題の状況や原因を整理し, その課題の解決に活かす資源 (ヒト・モノ・カネ・制度・歴史など) がどのように, どこにあるかを探し, とらえる力を養います。	社会調査法, 情報社会論	都市計画論, 価値創造論	政策実践・探究演習 I A・II A, I B・II B	300
			景観・まちなみ保存政策, 科学技術政策 キャリアデザインのための企業研究		400
					500
考える・思考 表現する・提示する	【課題をとりまく資源を活かす解決策をみずから考え, 未来を示す力】  課題はいつもその課題に固有の構造をもち, その解決に活かせる力もそのとき, その地域, その課題によって異なります。未来にむけて, さまざまな政策とその展開を知り, みずからの課題にあった独自の解決策を構想し, 表現する力を養います。		地域経済学, 財政学, 地域レジリエンス論	政策学研究 発展演習 I・II・III IV・V	300
			GCE (人間の安全保障), 地域経済政策, キャリアデザインのための企業研究		400
			行政法		500
			グローバル戦略実践演習		600
実践・イノベーション	【多様なひとびとと課題にとりくみ, 解決にむけて進んでいく力】  公共課題はひとりでは解決できません。その課題をほととけない団体, ひとびととつながり, 課題とめざす未来を共有し, 思いを力にひきだしてはじめて, 政策は力となります。	NPO・ボランティア入門			100
					300
			比較地域政策論, キャリアデザインのための企業研究, 環境社会政策論		400
			地域公共人材特別講座 (環境の仕事)		500
		グローバル戦略実践演習		600	

## ■環境創造コース「自然と共生する社会をつくる人になる」

ナビ	内容	科目			グレード
		教養科目	専攻科目	専攻 (AL) 科目	
視点・眼力	【いきものの目, 地球の目, 未来の目をあわせもつ】  自然と共生する社会を構想するために, 生態系を構成する多様ないきものの視点, 地球全体の視点, そして将来世代の生存と生活を考える視点を身につけます。	環境と社会, 国際社会論	地域経済学, 財政学, 環境政策総論, 地場産業論, 環境社会学		300
			GCE (人間の安全保障・平和構築), 環境経済学, 地域経済政策, 環境法政策		400
			企業のCSR実践演習, 農村地域再生政策, 国際ビジネス論, 地域公共人材特別講座(環境の仕事), 交通運輸政策, 環境エネルギー政策, 国際環境法		500
			地球環境政策論		600
分析調査	【自然と人間のかかわりの中にある豊かさ と危険を読み解く】  自然と人間の関係は, 様々に変化してきました。生活の豊かさをもたらすこともあれば, 危険(リスク)や被害をもたらすこともあります。私たちの社会と自然がどのようなかかわりを持ち, それをもたらすものを明らかにする方法を身につけます。	環境と社会, 自然誌実習, 野外観察法	保全生態学, 価値創造論, 地場産業論, 環境社会学	政策実践・探究演習 I A・II A, I B・II B  政策学研究 発展演習 I・II・III IV・V	300
			文化・観光政策, 景観・まちなみ保存政策 環境経済学, アジアの環境政策, 欧州の環境政策		400
			企業のCSR実践演習, 環境エネルギー政策		500
考える・思考 表現する・提示する	【自然と人間が共生する社会のしくみを描く力】  自然と人間が共生する社会を実現する制度, 政策, 活動について学び, 考え, 表現します。具体的な政策課題とその解決アプローチを学んで, 自然と共生する社会を実現するための多様な選択肢を手に入れましょう。		地域経済学, 財政学, 環境政策総論, 地場産業論		300
			GCE (人間の安全保障), 環境経済学, 地域経済政策		400
			欧州の地域・都市政策, 北米・中南米の地域・都市政策, 企業のCSR実践演習		500
			グローバル戦略実践演習		600
実践・イノベーション	【自然と人間が共生する“かかわり”をうみだす力】  分析・調査し, 考え, 提案したことを実践してみたり, 実現方法を考えたりします。自然と共生する社会をつくる一歩を踏み出すため, 政策や活動の主体となってみましょう。		地場産業論		300
			キャリア・コミュニケーション演習		400
			企業のCSR実践演習, 地域公共人材特別講座(環境の仕事)		500
			グローバル戦略実践演習		600

## 【12】「地域公共政策士」

### ■「地域公共政策士」とは

「地域公共政策士」は、環境問題や雇用問題、少子高齢化、人口減少、産業衰退といった社会的課題を産官学民の連携のもと解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導およびコーディネートができる人材「地域公共人材」の能力を保証する地域資格制度です。この地域公共政策士の取組は、京都府内の大学・大学院、自治体、NPO、経済団体等の連携事業「地域公共人材大学連携事業」によって、平成23(2011)年度から本格的にスタートしました。将来的には自治体、NPO、民間企業等での採用活動における能力証明「社会的パスポート」として活用されることが期待されています。

「地域公共政策士」資格制度には、学部レベルで取得できる「初級地域公共政策士」と大学院修士レベルで取得できる「地域公共政策士」の2種類の資格があります。これらの資格を取得するためには、各資格に設けられている資格教育プログラムから定められたポイントを取得し、認定機関である「一般財団法人地域公共人材開発機構」へ資格付与の申請をする必要があります。

「地域公共政策士」の特長の一つが「アクティブ・ラーニング（AL）」の要素がプログラムに組み込まれている点です。地域活動の現場にチームで入り、地域の課題解決までのプロセスについて学修する課程が用意されています。地方創生が注目されている今、地域の諸課題に取り組み、チームビルディングの経験を有する地域公共政策士の活躍が期待されていますのでぜひ積極的に資格取得にチャレンジしてください。

なお、一括申請による発行手続きを行う場合に限り、資格発行手数料を大学が負担する制度があります。詳細はポータルサイトにてお知らせいたします。

### <地域公共政策士資格制度の概要>



※ AL（アクティブ・ラーニング）とは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた学習法です。

### <初級地域公共政策士資格（学部レベル）取得で身につく力>



## 政策学部「初級地域公共政策士」資格教育プログラム

政策学部では、「初級地域公共政策士」資格取得にかかる以下の3つのプログラムを用意しています。3つのプログラムの中から、希望のプログラムを選び修了要件を満たすことで「初級地域公共政策士」資格を取得することができます（複数プログラムの受講も可）。

### 環境政策基礎能力プログラム

- ①目的：環境問題について地球規模かつ地域規模の多面的な視角から学び、実際に展開されている多様なとりくみを検討し、課題解決を地球規模、地域規模で実践的に構想する力の基礎、また課題をめぐる社会内のコミュニケーションのメカニズムの基礎を学ぶ。
- ②対象：政策学部2年次生以上、もしくはそれと同等以上の能力があると政策学部が認める者。
- ③アウトカム（プログラム修了時に獲得することが期待される能力）：

到達目標	知識 (knowledge)	技能 (skills)	職務遂行能力 (competence)
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化する世界と地域社会の関係に関する理解</li> <li>対象となる課題群の相互関係の把握と分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用</li> <li>対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会における特定の計画やプロジェクト策定への主導</li> <li>課題の解決のために必要な社会的資源の調達</li> </ul>

#### ④環境政策基礎能力プログラム 修了要件

科目群		必要ポイント
<input checked="" type="checkbox"/> 科目群	環境問題の世界規模の全体像や対応政策について、その基礎を学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
<input type="checkbox"/> 科目群	環境問題が社会にどのような影響をおよぼすかを広範に学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上

△科目群	エネルギー，温暖化問題に対する地域事例を通じて学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
※科目群	得た知識から分析，議論を重ね，思考していくことを学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
計		6科目 12ポイント

⑤環境政策基礎能力プログラム〈修了要件〉◎，□，△，※からそれぞれ1科目以上選択 計6科目（12ポイント）

科目名		ポイント
◎	環境政策総論	2ポイント
	環境経済学	2ポイント
□	環境社会学	2ポイント
	持続可能性と共生を学ぶ	2ポイント
△	欧州の環境政策	2ポイント
	環境エネルギー政策	2ポイント
	保全生態学	2ポイント
	地球環境政策論（※環境サイエンスコースでは「環境政策論Ⅱ」で開講）	2ポイント
※	キャリア・コミュニケーション演習	2ポイント
	政策学研究発展演習Ⅲ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント
	政策学研究発展演習Ⅳ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント
	政策学研究発展演習Ⅴ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅠA（国内）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅡA（国内）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅠA（海外）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅡA（海外）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅠB（海外）（注1）	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅡB（海外）（注1）	2ポイント
	Glocal Action Program（Ryu-SEI GAP）	2ポイント

（注1）政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ，政策実践・探究演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBはそれぞれ4単位科目ですが，本プログラムのポイント数は2ポイントとして取り扱います。

（注）開講期は年度によって変更の可能性があります。

## 都市政策基礎能力プログラム

- ①目的：都市，地域をめぐる，状況，特徴，枠組み，課題やとりくみをとらえる多面的な視角や知識，政策を実践的に構想する能力の基盤を育て，また課題をめぐる社会内のコミュニケーションのメカニズムの基礎を学ぶ。
- ②対象：政策学部2年次生以上，もしくはそれと同等以上の能力があると政策学部が認める者。
- ③アウトカム（プログラム修了時に獲得することが期待される能力）：

到達目標	知識 (knowledge)	技能 (skills)	職務遂行能力 (competence)
・地域社会に関する様々な理論・政策・地域活動を適切に組み合わせて活用することができる	・グローバル化する世界と地域社会の関係に関する理解 ・様々な政策や地域の活動を対象とする客観的な分析と評価	・地域における複雑な課題群について，その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用 ・対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築	・地域社会における特定の計画やプロジェクト策定への主導 ・課題の解決のために必要な社会的資源の調達

### ④都市政策基礎能力プログラム 修了要件

科目群		必要ポイント
◎科目群	地域や都市のあり方や構造を見る知識や視角の基礎を学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
□科目群	地域と経済について，その問題性や構造の基礎を学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
△科目群	地域の政策課題とそのとりくみ事例を学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
※科目群	得た知識から分析，議論を重ね，思考していくことを学ぶ。	1科目以上 2ポイント以上
計		6科目 12ポイント

### ⑤都市政策基礎能力プログラム〈修了要件〉◎，□，△，※からそれぞれ1科目以上選択 計6科目（12ポイント）

科目名	ポイント	
◎	地域・都市政策総論	2ポイント
	都市計画論	2ポイント
□	地域経済学	2ポイント
	財政学	2ポイント
△	景観・まちなみ保存政策	2ポイント
	文化・観光政策	2ポイント
	欧州の地域・都市政策	2ポイント
	北米・中南米の地域・都市政策	2ポイント
※	キャリア・コミュニケーション演習	2ポイント
	政策学研究発展演習Ⅲ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント

政策学研究発展演習Ⅳ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント
政策学研究発展演習Ⅴ（毎週2講時連続）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅠA（国内）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅡA（国内）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅠA（海外）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅡA（海外）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅠB（海外）（注1）	2ポイント
政策実践・探究演習ⅡB（海外）（注1）	2ポイント
Glocal Action Program（Ryu-SEI GAP）	2ポイント

（注1）政策学研究発展演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ，政策実践・探究演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBはそれぞれ4単位科目ですが，本プログラムのポイント数は2ポイントとして取り扱います。

（注）開講期は年度によって変更の可能性があります。

## グローバル人材プログラム

- ①目的：企業とのプロジェクトを実践する前提としての，公共マインド，グローバルマインド，ビジネスマインドを養成する。このため，「地域公共」および「グローバルな課題」に関する視野を幅広く培うとともに，企業人との双方向のやりとりを重ねることで，企業の活動実態や抱えている課題，そしてその社会的意義についての学習者の理解を深める。
- ②対象：政策学部2年次生以上，もしくはそれと同等以上の能力があると政策学部が認める者。
- ③アウトカム（プログラム修了時に獲得することが期待される能力）：

到達目標	知識 (knowledge)	技能 (skills)	職務遂行能力 (competence)
・地域社会の改革や発展のための計画やプログラムの策定を，主体的に実行することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化する世界と地域社会の関係に関する理解</li> <li>・地域社会における様々な活動と，活動をになう主体との関係の実践的把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における複雑な課題群について，その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用</li> <li>・対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の遂行における管理・運営への補助的な責任を分担することができる</li> </ul>

### ④グローバル人材プログラム 修了要件

科目群		必要ポイント
◎科目群	公共マインドの基礎とビジネスマインドを養う	1科目以上 2ポイント以上
□科目群	ビジネスの現場を知り，提案力・プレゼンテーション力を磨く	1科目以上 2ポイント以上
△科目群	得た知識から分析・議論を重ね，思考していくことを主体的に学び，企画・実践力を養う	1科目以上 2ポイント以上
※科目群	英語をコミュニケーションツールとして学び，国際ビジネスに必要な異文化間理解能力や英語による発信能力を高める	1科目以上 2ポイント以上

計	6科目 12ポイント
---	------------

⑤グローバル人材プログラム〈修了要件〉◎, □, △, ※からそれぞれ1科目以上選択計6科目 (12ポイント)

科目名		ポイント
◎	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA (公共性・コミュニティ)	2ポイント
	グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB (民主主義)	2ポイント
	アジアの地域・都市政策	2ポイント
	欧州の地域・都市政策	2ポイント
	北米・中南米の地域・都市政策	2ポイント
	地場産業論	2ポイント
□	国際ビジネス論	2ポイント
	キャリアデザインのための企業研究	2ポイント
	企業のCSR 実践演習	2ポイント
△	コミュニケーション・ワークショップ演習	2ポイント
	キャリア・コミュニケーション演習	2ポイント
	Glocal Action Program (Ryu-SEI GAP)	2ポイント
※	政策実践・探究演習ⅠA (海外) (注1)	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅡA (海外) (注1)	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅠB (海外) (注1)	2ポイント
	政策実践・探究演習ⅡB (海外) (注1)	2ポイント
	グローバル・コミュニケーション英語A	2ポイント
	グローバル・コミュニケーション英語B	2ポイント
	政策総合英語A	2ポイント
	政策総合英語B	2ポイント

(注1) 政策実践・探究演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB (海外) はそれぞれ4単位科目ですが、本プログラムのポイント数は2ポイントとして取り扱います。

(注) 開講期は年度によって変更の可能性があります。

## 【13】「グローバルプロジェクトマネジャー」

## ■「グローバルプロジェクトマネジャー」とは

「グローバルプロジェクトマネジャー（GPM）」は、経済界・企業が求める人材、特に京都やその近隣企業の将来の幹部候補になりうる「グローバルな視点で物事を考える能力を兼ね備えつつ、地域経済・社会（ローカル）の持続的な発展に情熱を注ぐ」人材（グローバル人材）に求められる能力を具体化した職能資格です。グローバル化が進む今日の企業社会は、広く世界に開かれた視野をもち、かつ主体的で実践的なものごとを進めることができる人材を必要としています。GPMの取得は、大学において企業連携プロジェクトを含む、厳しく実践的な学びを修めたことを、企業や社会に証明する手段となります。

本資格は「初級地域公共政策士」資格教育プログラムのうち、「グローバル人材プログラム」の修了要件を満たすことに加え、PBL科目「グローバル戦略実践演習」（6セメスター開講）を履修し、単位修得することで取得することができますので、「初級地域公共政策士」資格を同時に取得できます。

本資格の取得のためには事前に履習が必要な科目があるため、資格取得意思確認書を確認いただくか、政策学部教務課までお問い合わせください。

なお、本資格の発行については「特定非営利活動法人グローバル人材開発センター」へ資格付与の申請をする必要があります。

「初級地域公共政策士」については同センターの資格制度を参考にしてください。

### <地域公共政策士資格制度の概要>



### <グローバルプロジェクトマネジャー資格取得で身につく力>



# 研究科について

## 政策学研究科について

政策学研究科の概要については、「2025年度政策学研究科履修要項」をご覧ください。



## 龍谷大学大学院修士課程学内推薦入学試験について

本学学部生を対象とした「龍谷大学大学院修士課程学内推薦入学試験」を実施しています。また、本入試への出願予定者を対象とした「大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）」制度があります。詳細は政策学部教務課までお問合せください。

## 政策学部生の政策学研究科科目早期履修制度について

政策学研究科への進学を希望する優秀な政策学部生を対象として、大学院科目を早期に履修する機会を提供することで大学院進学へのモチベーションを高め、目的意識と計画性をもって大学院進学への準備を行うことを目的とした政策学研究科科目の早期履修制度を設けています。以下の資格を有する者に限り、学部における修学に影響のない範囲で大学院政策学研究科科目を履修することが認められます。

### 1. 申込資格について

以下5点を全て満たす者。

- ① 本学政策学部卒業年次生
- ② 前年度終了時点で卒業要件単位100単位以上修得している者  
3年次編転入生については卒業要件単位80単位以上修得していることを条件とする。
- ③ 前年度終了時点でGPAが2.30以上の者で以下2つの条件を満たす者
  - ・ 地域公共政策士、もしくはソーシャル・イノベーション・デザイナー（SI-D）の資格取得を目指すこと。
  - ・ 政策学部専任教員の推薦状があること。
- ④ 政策学研究科入学試験による進学を希望する者
- ⑤ 早期履修に関する説明を政策学部教務課により受け、定められた期間内に研究計画書を提出する者

### 2. 申込書類および申込締め切りについて

#### 【申込書類】

- ① 政策学部生の大学院政策学研究科における科目履修制度 願書
- ② 研究計画書

※ 申込書類はポータルサイトからダウンロードしてください。

#### 【申込締切】

申込期間が決まり次第、ポータルサイトでお知らせします。

### 3. 履修許可について

申込締切後、政策学研究科委員会で審議した後、履修許可者を発表します。

## 4.費用について

本制度に係る費用は発生しません。

## 5.成績評価の基準・単位認定について

①成績評価の基準は大学院シラバスに基づきます。

②政策学研究科入学後、単位認定の申請に基づき政策学研究科委員会で審議され、大学院科目の履修単位として認定されます。なお、単位認定の上限は15単位となります。

## 6.受講対象科目について

政策学研究科委員会で認めた政策学研究科修士課程開講科目が対象となります。受講対象科目等は、ポータルサイトで確認してください。

※その他詳細については政策学部教務課で確認してください。